2023年(令和5)度事業報告

公益財団法人　日本骨髄バンク

目次

Ⅰ．法人の概要

１．基本情報
２．基本方針
３．沿革
４．組織図
５．理事・評議員・監事の概要
６．職員の概要

Ⅱ．事業の概要

１．普及啓発活動
２．連絡調整事業
３．国際協力事業
４．調査研究協力事業
５．患者負担金の軽減措置
６．ドナー健康被害補償事業
７．委員会運営
８．財政運営
９．関係機関との連携

Ⅲ．財務の概要

１．貸借対照表
２．正味財産増減計算書

Ⅳ．コーディネートに関する資料集

Ⅰ．法人の概要

1．基本情報

法人情報	：公益財団法人日本骨髄バンク
主たる事業所の住所	：東京都千代田区神田錦町3丁目19番地　廣瀬第2ビル7階
電話番号	：03（5280）8111（代表）
ホームページアドレス	：https://www.jmdp.or.jp/

2．基本方針

当法人の使命

骨髄バンクは、白血病等の血液難病に苦しむ人達を救済するため、善意による骨髄等提供の仲介を行うために設立されました。
これまで多くのドナー登録者を集め、患者さんとドナーさんの橋渡し役を務めてきましたが、より多くの患者さんの救命を使命として、事業の推進に全力を注いでいきます。

日本骨髄バンクは、国民の協力と国の支援の下に成り立つ骨髄バンクの事業主体として、患者救命という使命を果たすため、公平性、公共性、広域性の三大原則のもと、透明性が高く、迅速な運営を目指します。

事業の推進

公平かつ迅速なコーディネートの推進と、一人でも多くのドナー登録者の確保により、非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植の仲介件数増加を図ります。そのため、財政基盤の安定化を図りつつ、事業推進に向けた環境整備に取組みます。

基本方針

■より多くの移植機会を提供し、移植を受けられない患者さんを減らすこと。
■迅速なコーディネートを行うとともに、関係者の協力を得て、コーディネート期間の短縮に努めること。
■一人でも多くのドナー登録者を確保するため、関係各方面と協力して事業を進めること。
■ドナーさんの総合的な安全対策を強化するとともに、適切なフォローアップを行うこと。
■患者さんへの適切な情報提供、患者負担金の低減などに努めること。
■組織機構の充実を図るとともに、個人情報の保護や危機管理体制の整備、情報公開などを進め、公益法人としての機能を強化すること。

骨髄バンク事業における役割分担

骨髄バンク事業は、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」（平成24年法律第90号、以下法という）に基づく骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者として、公益財団法人日本骨髄バンクが主体となり、日本赤十字社と都道府県等の協力により行われている公的事業です。

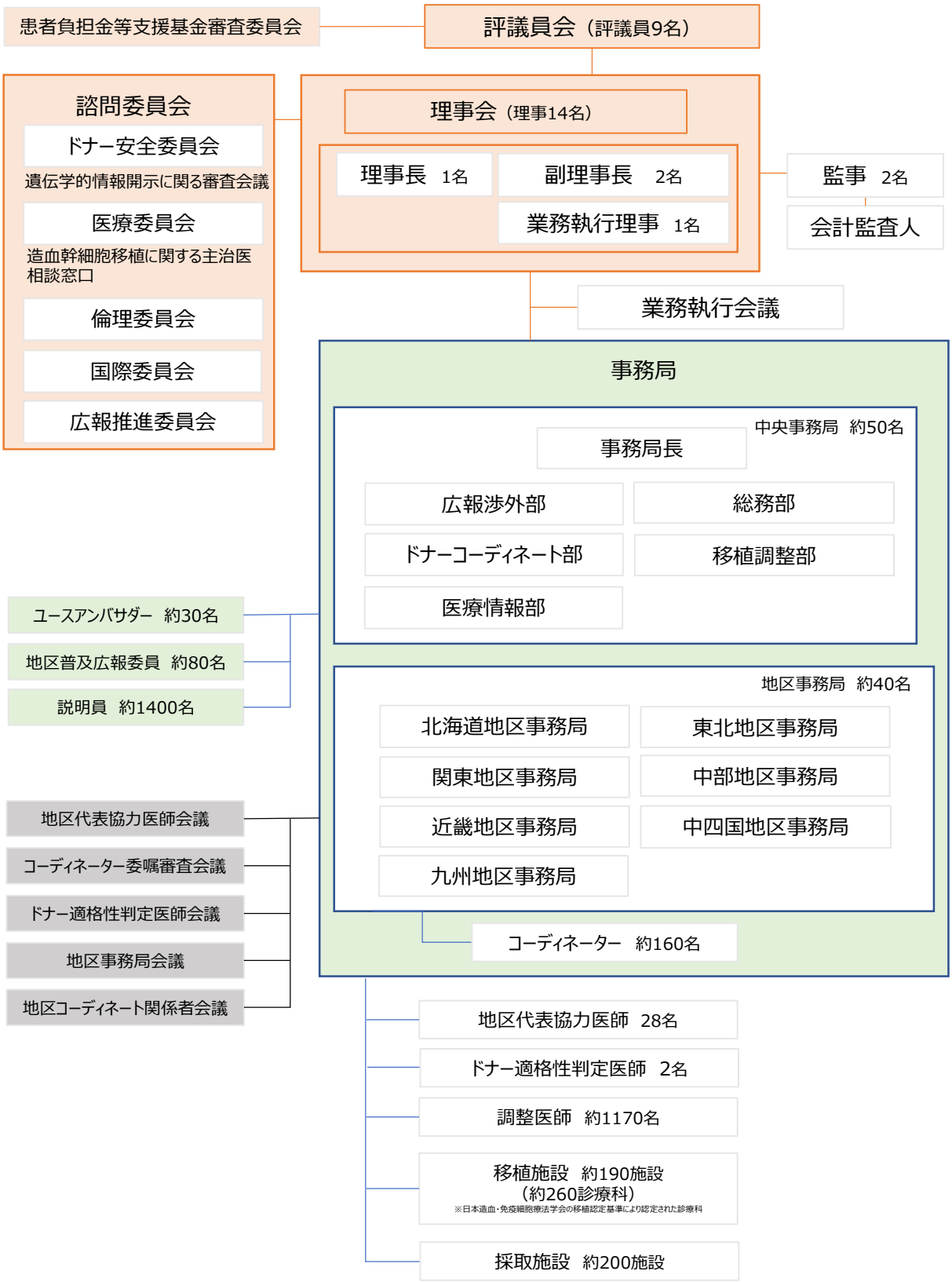
3．沿革

年月		
1991	12	財団法人骨髄移植推進財団設立（18日）
1992	1	日本赤十字社「骨髄データセンター」設置・ドナー登録の受付開始
	6	患者登録の受付開始
	9	コーディネート開始
1993	1	日本骨髄バンクにおける初の骨髄移植を実施（28日）
1994	10	全国の保健所でドナー受付を開始
1997	1	日本骨髄バンクにおける骨髄移植1,000例到達（29日）
	4	ドナー登録時に1次、2次検査（HLA-A座、B座、DR座検査）を同時実施 日本骨髄バンクとNMDP（米国骨髄バンク）が提携（国際ドナー検索契約） TCMDR（台湾骨髄バンク）とも試験的提携を開始
	9	国際協力による骨髄移植第1例の実施（NMDPから）
1998	4	BMDW（世界骨髄バンクHLA型種類別データ集計システム）に参加 HLA照合サービス開始
	6	TCMDR（台湾骨髄バンク）から初の骨髄提供
	8	ドナー登録者数10万人到達（13日）
	10	韓国に骨髄提供第1例
1999	1	HLA一部不適合移植、年齢拡大など移植希望患者の適応拡大
	5	KMDP（韓国骨髄バンク）と仮提携締結による相互検索サービスを開始
	10	東海村での被爆事故患者への緊急コーディネート開始
2000	3	KMDPから初の骨髄提供
	5	KMDPと提携後、初の骨髄提供
	6	厚生省「骨髄提供希望者確保事業」実施要綱の改正通知（ドナー登録会の実施要綱改訂）
2001	1	コーディネートのコンピュータシステム本格稼働
	8	移動献血会場でのドナー登録受付、全国展開へ
	9	米国同時多発テロにより、NMDPからの骨髄搬送にチャーター機利用
2002	4	患者救済に資する事業募金を開始
2003	8	日本骨髄バンクにおける骨髄移植5,000例到達（1日）
2004	11	ドナー登録者数20万人到達（25日）
2005	3	ドナー登録要件緩和（下限18歳以上、登録時の家族同意の不要など）
	9	ドナー登録要件の上限年齢が「登録54歳まで・提供55歳まで」に引き上げ
2007	9	中国骨髄バンク（CMDP）と提携
	11	WMDA（世界骨髄バンク機構）認定を受ける
2008	1	ドナー登録者数30万人到達（15日）
	12	日本骨髄バンクにおける骨髄移植10,000例到達（3日）
2009	8	ドナー登録時にHLA-C座検査開始（1日）
2010	10	末梢血幹細胞移植（PBSCT)を導入（1日）

年月		
2011	1	新規ドナー登録者に末梢血幹細胞移植（PBSCT)の説明開始（1日）
	3	日本骨髄バンクにおける初の末梢血幹細胞移植を実施
	12	日本骨髄バンク設立20周年記念全国大会開催（17日）
2012	4	公益財団法人　骨髄移植推進財団に移行登記（1日）
	12	骨髄・末梢血幹細胞移植15,000例到達（12日）
2013	10	公益財団法人 日本骨髄バンクに名称変更（1日）
2014	4	厚生労働大臣よりあっせん事業者として許可される（1日）
2016	4	「再生医療用iPS細胞ストック」への協力を開始
	9	日本骨髄バンク設立25周年記念全国大会開催（17日）
	10	骨髄・末梢血幹細胞移植20,000例到達（19日）
2018	7	日本骨髄バンクにおける末梢血幹細胞移植500例到達
2019	2	ドナー登録者数50万人到達（28日）
	11	造血幹細胞移植支援システム（医療機関支援機能）稼働（30日）
2020	8	日本骨髄バンクにおける末梢血幹細胞移植1,000例到達
	12	骨髄・末梢血幹細胞移植25,000例到達
2021	10	日本骨髄バンク設立30周年記念大会Web開催（2日）
2023	3	非血縁者間造血幹細胞移植　累計症例50,000例到達（9日）
	11	内閣府より「紺綬褒章」の公益団体認定を受ける（10日）

4. 組織図

2024年3月31日現在



5．理事・評議員・監事の概要

評議員

＊2024年3月31日現在　五十音順、敬称略

No.	役職名	氏名	所属等	常勤・非常勤
1	評議員	芦田　信	公益財団法人　成長科学協会　評議員	非常勤
2	評議員	梅田　正造	千葉骨髄バンク推進連絡会会長、ドナー	非常勤
3	評議員	大谷　貴子	特定非営利活動法人　全国骨髄バンク推進連絡協議会　副会長	非常勤
4	評議員	小達　一雄	夏目雅子ひまわり基金　理事長	非常勤
5	評議員	垣添　忠生	公益財団法人　日本対がん協会　会長	非常勤
6	評議員	河　敬世	大阪府立病院機構　大阪母子医療センター　顧問	非常勤
7	評議員	高坂　久美子	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院　看護副部長	非常勤
8	評議員	中溝　裕子	プロゴルファー	非常勤
9	評議員	溝口　秀昭	東京女子医科大学　名誉教授	非常勤

（定数：5名以上15名以内　任期：2024年6月の通常評議員会の終結時まで）

理事

＊2024年3月31日現在　五十音順、敬称略

No.	役職名	氏名	所属等	常勤 非常勤	国家公務員出身者の最終官職
1	理事長	小寺　良尚	愛知医科大学　名誉教授	非常勤	
2	副理事長	岡本　真一郎	慶應義塾大学医学部　名誉教授	非常勤	
3	副理事長	佐藤　敏信	久留米大学　特命教授	非常勤	厚生労働省 健康局長
4	業務執行理事	浅野　史郎	㈱土屋・土屋総合研究所特別研究員	非常勤	厚労省生活衛生局 企画課課長
5	理事 メディカルディレクター	加藤　俊一	東海大学　医学部　客員教授	非常勤	
6	理事	石丸　文彦	日本赤十字社　血液事業本部	非常勤	
7	理事	鎌田　麗子	弁護士	非常勤	
8	理事	鈴木　利治	弁護士	非常勤	
9	理事	瀬戸　愛花	東京衛生アドベンチスト病院　血液内科　医長	非常勤	
10	理事	高橋　聡	東京大学医科学研究所 臨床精密研究基盤　社会連携研究部門 特任教授	非常勤	
11	理事	橋本　明子	特定非営利活動法人血液情報広場つばさ 理事長	非常勤	
12	理事	日野　雅之	大阪公立大学大学院医学研究科血液腫瘍制御学 教授	非常勤	
13	理事	福田　隆浩	国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科　科長	非常勤	
14	理事	三田村　真	㈱医学生物学研究所　営業本部長 ドナー経験者	非常勤	

（定数：5名以上15名以内　任期：2024年6月の通常評議員会の終結時まで）

監事

＊2024年3月31日現在

No.	役職名	氏名	所属等	常勤・非常勤	国家公務員出身者の最終官職
1	監事	藤井　美千子	株式会社ライフケアパートナーズ 代表取締役社長	非常勤	
2	監事	沓沢　一晃	東京海上日動火災保険株式会社 医療・福祉法人部長	非常勤	

業務執行会議・理事会・評議員会の開催（Web）

業務執行会議：2023年4月14日、5月12日、7月14日、9月8日、11月17日、12月8日、2024年1月12日
理事会：2023年6月9日、2024年3月8日
評議員会：2023年6月23日
臨時理事会：2023年10月6日、2024年2月9日

業務執行会議は、理事長及び業務執行理事によって構成され、理事会または理事長から付議された事項および業務について協議を行う機関。今年度は計7回開催された。

理事会は評議員会で選任された理事をもって構成され、定款に基づいて当法人の重要な業務執行について決定するとともに、理事の職務の執行を監督する機関。今年度は臨時理事会とあわせ4回開催された。
事業計画、予算案の策定、前年度決算、内部規程の変更などの審議ならびに各種報告が行われた。

評議員会は、評議員会で選任された評議員をもって構成され、決算報告、事業報告等の当法人にとって重要な事項を決定するための最高の意思決定機関。今年度は1回開催され、「令和4年度事業報告(案)」「令和4年度決算報告(案)」などについて審議が行われた。

6. 職員の概要

全国で約90人の職員が在籍しており、その内およそ3分の2がコーディネート部門に所属している。中央事務局では患者/ドナー情報が混在することがないようにするため、患者側とドナー側の部署のフロアを物理的に分けて設置している。

（１）適切な給与体系と人事評価制度の継続運用

職員の年齢や職歴、当法人における経験が　長短様々な中で適切な評価を行い、限られた原資の中でより適切な給与水準を整備した。
人事評価制度については、上司と部下による「目標実績面談」を年2回実施して業務上の課題や問題点を共有、評価シートによる人事評価を賞与と昇給に反映した。個々の能力・資質や実績等を反映したメリハリのある給与処遇を目指した。

（２）ジョブローテーションと適正人員の確保

ジョブローテーションにより人材育成と職員のモチベーションの維持向上を図っている。組織を活性化して職場内の人間関係硬直化を回避し、風通しの良い職場環境を実現している。適正人員の確保については、各部門の重点施策と業務量等を勘案し人員の適正配置に努め、また職員全体の年齢構成の偏りを是正し、事業の安定的な継続を実現するため若年層の職員を積極的に採用した。

（３）職員の就業に関する支援

定期的に衛生委員会を開催し、産業医による職員への健康相談、指導等を実施した。また傷病休暇・育児休暇・介護休暇等の制度を規定に基づき運用した。
ハラスメント防止のため、管理監督者向けと一般職向けの研修をオンライン形式で実施し、職員向けの外部相談窓口の周知と利用方法の案内を行うなど、働きやすい環境作りに努めた。また新入職員への研修を適宜実施した。

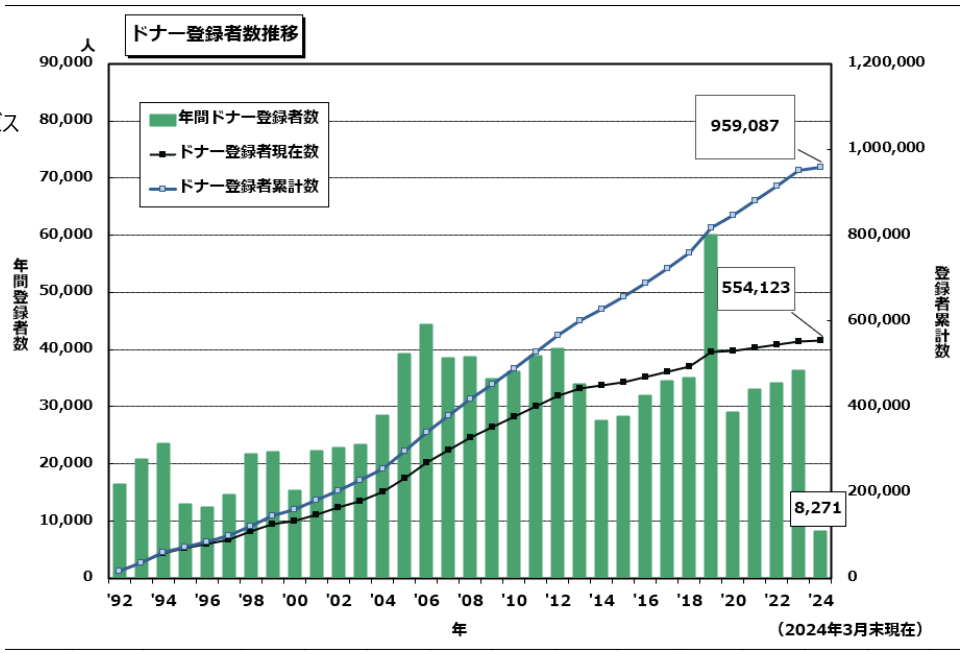
Ⅱ．事業の概要

日本骨髄バンク（以下、当法人という）は、2023年度（以下、今年度という）の事業計画に基づき「普及啓発活動」と「連絡調整事業」を推進した。

●ドナー登録者数

今年度の新規ドナー登録者は3万7112人で前年度3万4507人に比べ2605人増加した。登録者数は55万4123人(前年度末54万4305人）となった。

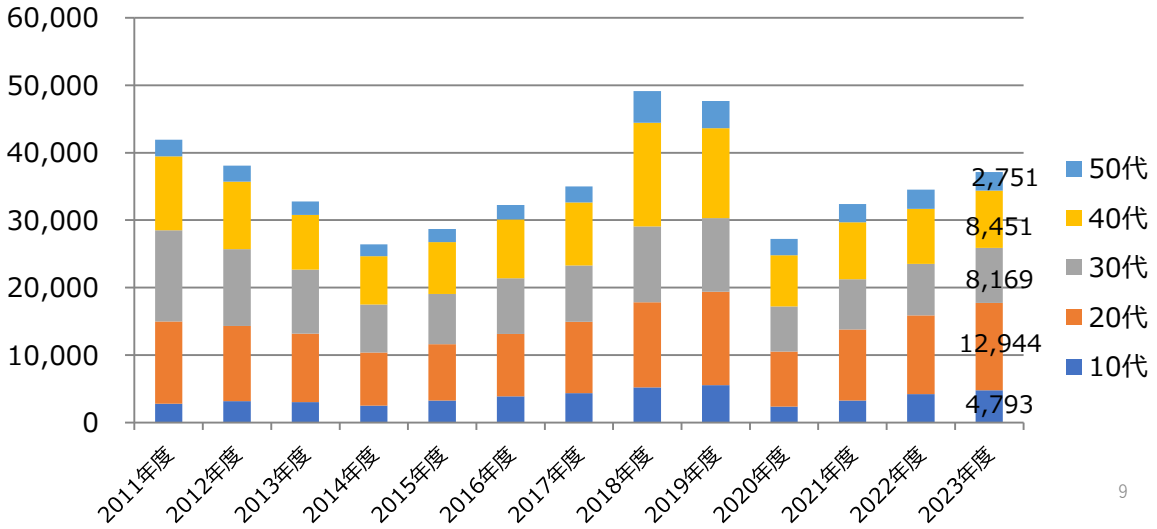
造血幹細胞移植情報サービス
骨髄バンク・さい帯血バンク
ポータルサイトより

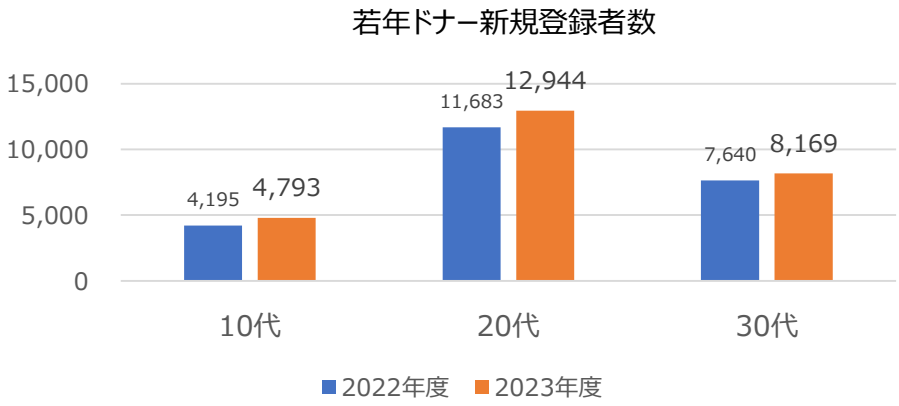


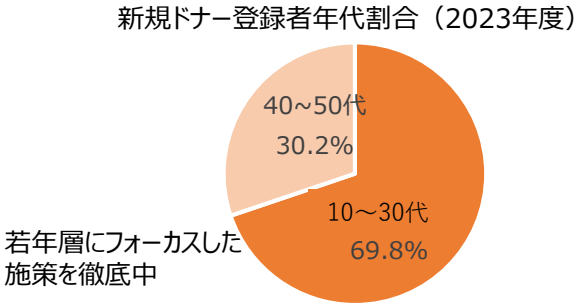
参考：AC広告

2006 本田美奈子
2007 ドナーリレー
2008～2010 休止
2011 私はドナーです
2012 川島海荷
2013 きみじゃなきゃ
2014 休止
2015 上原浩治
2016 ヒーロー引退
2017 僕が卒業しても
2018 生きたいと願う人がいる。
2019 休止
2020 あなた達のサポートがあったから こそ、
2021 僕は再びこの場所に戻ってこれた。
2022 天才だけでは、救えない
2022 おかあさんも、なおるかな？
2023 骨髄くんからのお知らせ。

年代別新規登録者数（年度別）

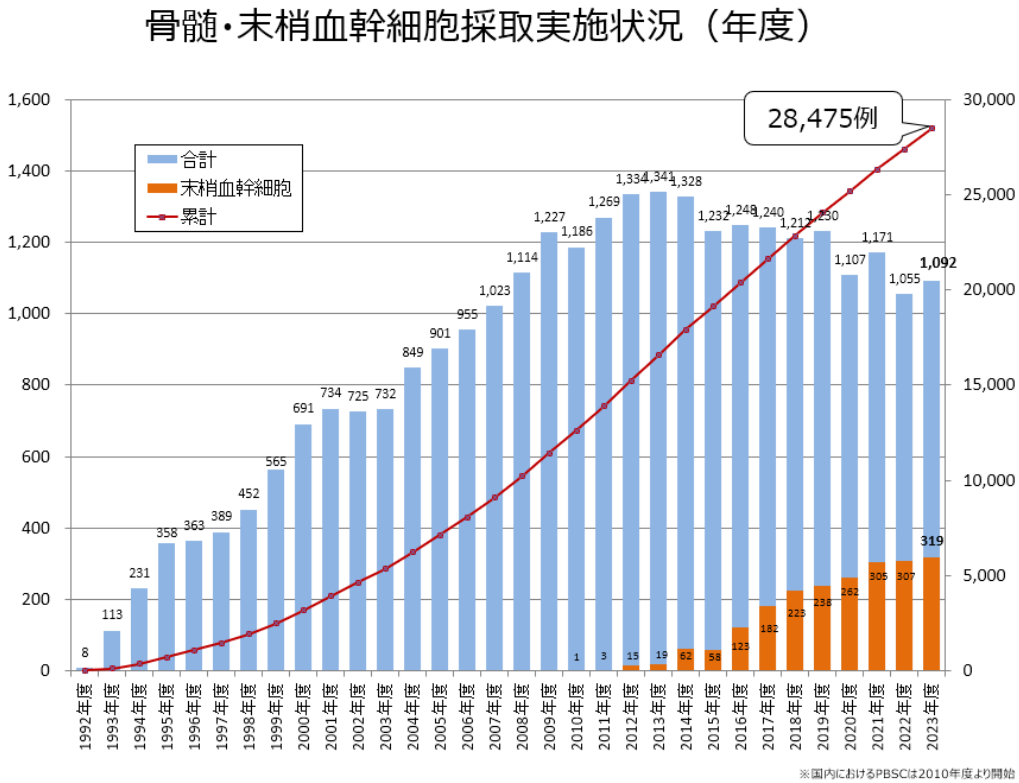






●採取数と患者登録数

採取件数（国内ドナー）1,092例（前年度1,055例）　累計28,475例
〔内、末梢血幹細胞採取：319例（前年度307例）累計2,117例〕



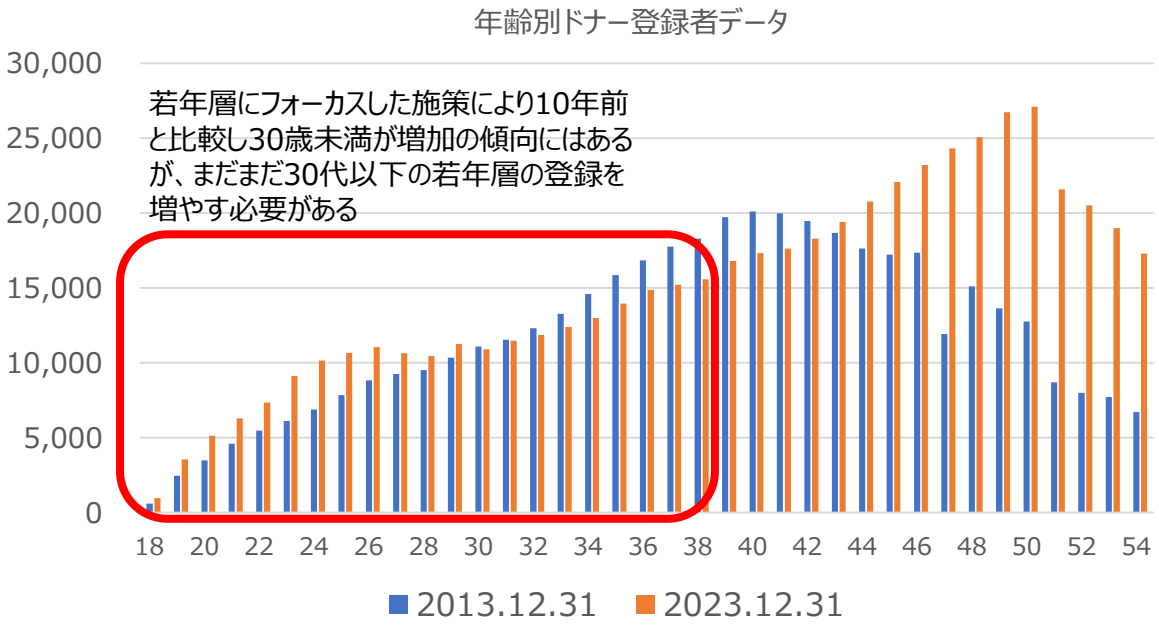
・国内患者の移植率（同期間の新規患者登録数と移植数の比率）：59.6%（前年度54.9%）
・患者登録数　国内1,822人（前年度1,911人）／海外432人（前年度449人）　計2,254人

※「年代別登録患者数」ならびに「年代別移植患者数」は、Ⅳコーディネートに関する資料集をご参考ください。

１． 普及啓発活動

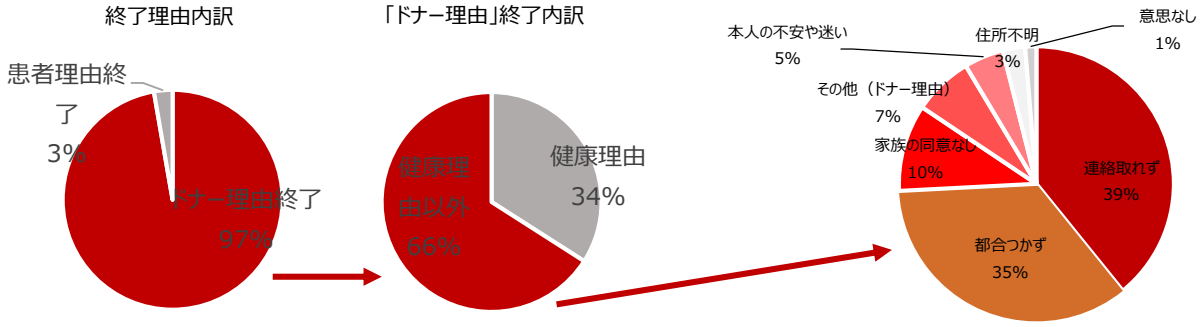
〔課題〕

ドナー登録者の高齢化が進み、今と同じ方法でドナーリクルートを続ければ、数年後からプールが縮小していく。また、適合ドナー2万3,605人のうち、53.5%が初期行程においてドナー理由で終了し、うち66%が健康面以外で、多くは「都合つかず」「連絡とれず」という理由で終了している。



適合通知送信者数
20,138人

初期行程終了者数
12,990人



〔取組みと結果〕

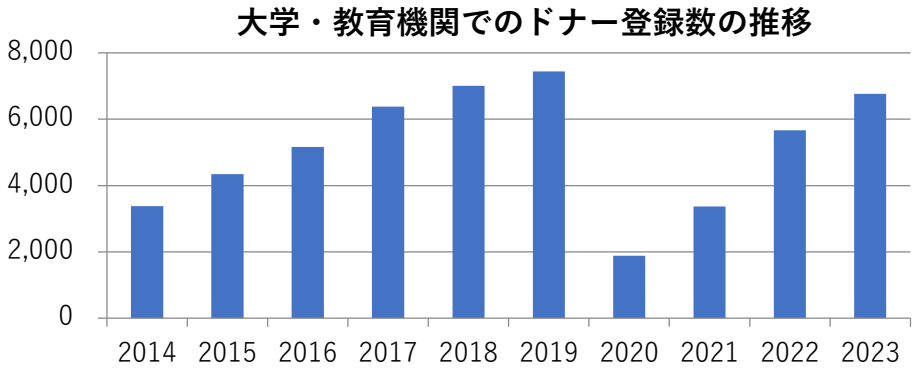
ドナープールの急激な縮小を食い止めるため若年層にフォーカスしてアプローチを強めることとし、「３０代以下の新規ドナー登録者を年間１万人増やす」という目標を掲げ、若年層への対策として下記①～③を開始した。

①SNSの更なる有効活用
②教育機関でのドナー登録会の増加
③スワブ検査＆オンライン登録の実現に向けた準備とそのトライアル

これらの結果として、上記グラフの通り30歳未満において10年前と比較し増加の傾向が見られ、2023年度は、37,108　名の新規登録者のうち、約70%近くが10～30代のドナーとなった。

１．大学でのドナー登録会促進とユース･アンバサダーへの協力依頼

ドナー登録会は大学での開催に注力し、10～20代のボランティア組織「ユースアンバサダー」との定例会を行いながら、note投稿やスワブトライアルのチラシ配布をお願いした。大学を中心とした教育機関における登録会は若年ドナーの獲得に大変有効である(下記グラフ参照)ため、今後も促進する。



また、移植/提供を経験したアンバサダーには語りべ講演会への登壇を依頼し、 特に大学や若年層の多い企業での講演会ではより多くの共感を得た。

２．「＃つなげプロジェクトオレンジ」の展開

新たな啓発プロジェクトとして「＃つなげプロジェクトオレンジ」キックオフミーティングを9月16日の世界骨髄バンクデーに発足し、特にX（旧Twitter）でのフォロー＆リポストキャンペーンでは、10,000フォロワーを目指し発信を強化、年内にフォロー数を達成し骨髄バンクの認知度向上につなげた。

また、メディアにも積極的に発信を行い、数多くの新聞やWEB媒体に取り上げられた。次年度にもつなげ、AC広告終了後の啓発活動に大きな役割を果たしたい。

3．スワブによるドナー登録時HLA検査導入に向けた準備

2026年度のスワブ登録の本格導入に向け、登録特設サイトや登録動画を作成、同意者によるオンライン登録およびHLA検体のスワブ採取トライアル運用を開始した。200名分のスワブ検体を目指し、大学やイベント会場などで特設サイト誘導のQRコードが記載されたチラシを配布、また一部を登録会場では語りべ講演に引き続いて直接キットを用いて採取するなど複数手段による試験的登録を行った。次年度も継続して目標数の獲得に取り組む。

4. ピースドナーシートの設置や登録者LINEによる友達登録の促進

スポーツ観戦しながら患者さんも選手も応援できる特等席として、「ピースドナーシート」が導入され、2023年4月のVリーグ男子ファイナルステージを皮切りに、9月にはMAZDAスタジアム広島での「広島東洋カープvs阪神タイガース」戦、2024年3月には有明コロシアムでのVリーグ男子ファイナルでもシートが設置され、多くの参加者が骨髄バンクドナーについて学び、登録について考える機会となった。第三弾ではその場で5名の方にスワブ登録いただくなど、バンクの認知度向上にも大きくつながる催しとなった。

LINEは、日本赤十字社の協力のもとドナー登録時に友達登録を呼びかけることとなり、ドナーカードの裏面に友達追加用のQRコードを印字するなどした結果、ユーザー数は66%増の23,825人となった。
今後さらにドナーリテンションの重要なツールとしての役割が期待される。

5. 寄付媒体拡充への取り組み

8月に、初の試みとしてクラウドファンディングを実施、200万円の目標額を達成した。
バンクニュースの寄付用紙添付による寄付やクレジットカード利用による件数が倍増し、個人が継続的に寄付を行う傾向が見られた。今後も継続的・安定的な寄付収入の増加を図りたい。
11月には内閣府より高額寄付者への「紺綬褒章」制度の公益団体認定を受けた。移植を受けた患者さんや遺贈による受賞者の増加が期待される。

6. 住所不明者への対策・SMSの取組み

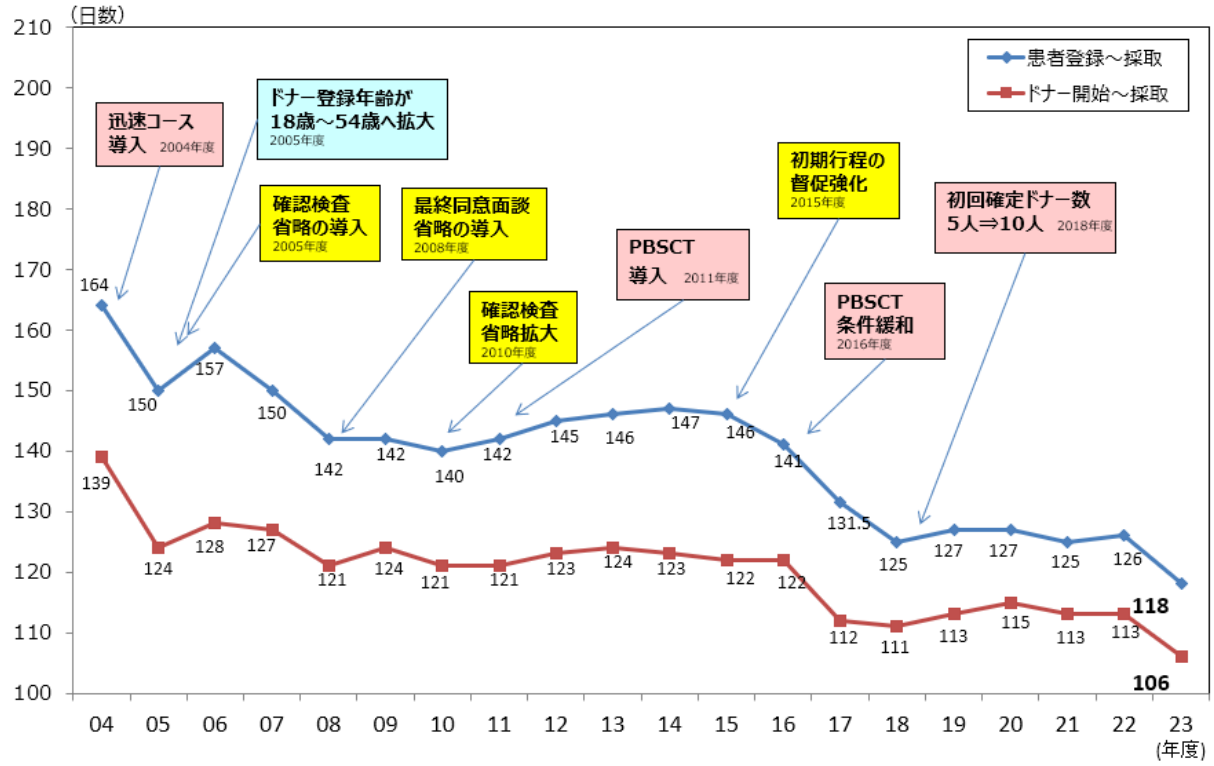
登録ドナーに定期発信する「バンクニュース」が複数回宛先不明となった対象は、「住所不明者」としてバンク登録が保留となり、患者の検索対象から外れる。それら対象者のうち、携帯番号の登録があった13,378人を対象にショートメッセージで住所等登録情報の変更を促し、3,401人（25.4%）がドナープールに戻った。
住所不明者への対策については、日本赤十字社の献血者コード連携とあわせ、次年度も継続して取り組む。

２．連絡調整事業

〔課題〕

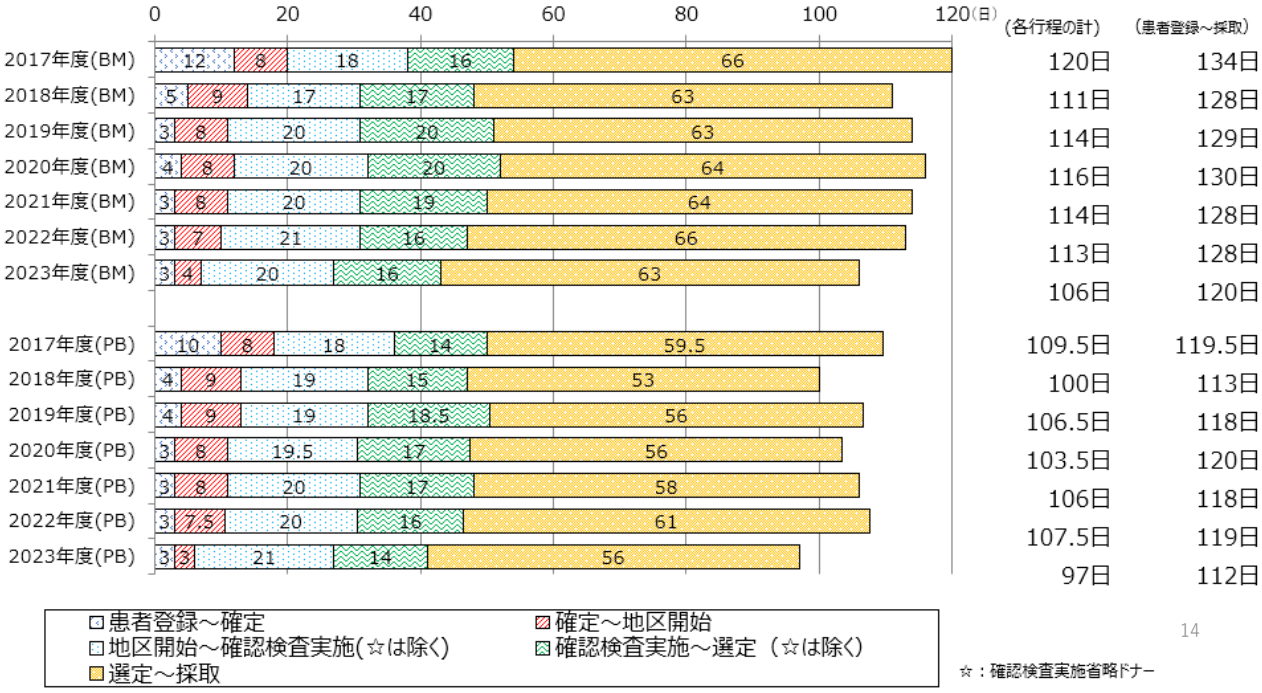
患者救命の観点から、コーディネート期間短縮は、継続した最重要課題である。2021年の期間短縮WG以来、運用面での見直しを継続して行っているが、今年度は特にドナー適格性判定における効率化を実現させた。

コーディネート期間の中央値の推移（2004～2023年度）



コーディネート期間(行程別中央値)2017～2023年度

(採取に至ったドナー)



〔取組み〕

（１）コーディネート期間短縮に向けた取組み

①適合ドナーからの問診票Web返信導入

2022年3月末より、適合ドナーからの問診票をWebで返信可能とし、導入前約10日間要していた返信までの日数を概ね2～3日と期間短縮効果があった。約9割の適合ドナーがWebで返信していることから、紙の問診票の郵送を原則中止した。2024年度は返信がない候補者への督促時期を早め、さらなる期間短縮を目指す。

②ドナー適格性判定　運用見直し

2021年コーディネート期間短縮ワーキンググループにおいて「ドナー適格性判定の効率化や判断の相違を防ぐ目的で、専任の適格性判定医師を導入する」ことを決定し、まずは確認検査判定までの運用を見直してきた。

＜経緯＞
これまで　　：全行程、地区代表協力医師に判定を依頼
2022年12月～　　：ドナー適格性判定医師を導入し、初期行程における適格性判定トライアル実施
2023年7月中旬～　：適格性判定医師が全国の確認検査を判定
2024年度～　　：前半行程は判定医師（主に確認検査判定）に、後半行程はドナーコーディネート協力医師（主に術前健診判定）にドナー適格性判定を依頼

本取組みにより各地区内のみの判定に留まらず、地区を超えてカバーし合う体制を目指す。
ドナーコーディネート協力医師の導入により、これまで各地区事務局毎に配置しご協力いただいた地区代表協力医師は今年度をもって廃止した。
また、ドナー適格性判定WGを3回開催した。

ドナー適格性判定医師とドナーコーディネート協力医師の役割分担

コーディネート行程	トライアル期間中 2022年12月～		導入後 2023年4月～	
	ドナー適格性判定医師	地区代表協力医師	ドナー適格性判定医師	ドナーコーディネート協力医師
初期判定（新設）	●		●	
地区コーディネート開始～選定		● ・確認検査前判断 ・確認検査判定	→ ●	
選定～術前判定		●		●
採取行程		●		●

③コーディネートへのリモート活用

ドナーが提供するには入通院のために約10日間要すため、都合をつけられずに提供を断念するケースが多く見られる。この拘束時間を少しでも減らし応諾率を高めること、また、コーディネーターが不足する地域でも遅延することなくコーディネートを進行できること等を目的に、リモート（電話、Web）を積極的に取り入れることを検討した。
まずは2024年度にトライアルを実施し、体制を整えたうえで早期導入を目指す。

これまで様々な取り組みにより各工程の期間短縮は実現したものの、全体を見るとまだ十分とは言えず、移植を急ぐ場合も患者の希望に応じた時期で提供できるようにするため、大きなルール変更等も含めて今後検討していく。

（2）コーディネート実施体制に関する取組み

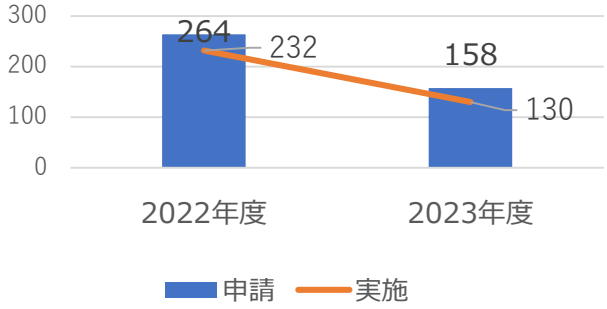
①調整医師の確保

患者の希望最適時期での移植を目指すために、年度を通じ調整医師の確保に努めた。
今年度末：1,172名
（前年度末：1,200名）
更に2024年度からは、これまで地区事務局を経由して当法人ドナーコーディネート部に申請いただいていた調整医師希望者からの申請を、当法人HPから希望者が直接ダウンロードでき、メール添付で申請手続きを完了できるよう簡略化を行うことで更に増員を目指す。

②「新型コロナウイルス感染症に伴う特別対応による凍結申請」の運用継続

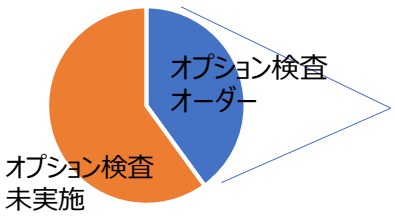
採取予定ドナー自身のCOVID-19陽性による採取中止/延期事例の増加により今年度においても「新型コロナウイルス特別対応による凍結申請」の受付を継続した。
新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、2023年5月8日に「5類」に移行したことによる影響か、申請は100例以上減少した。

〔凍結割合〕
11.9%（前年度:22.1%）



③1位選定ドナーのNGS-SBT法HLA検査実施の推奨

2020年3月NGS-SBT法HLA検査を導入（患者は必須、ドナーはオプション）



2020年度　　8%（ 92例/1,105採取）
2021年度　13%（157例/1,169採取）
2022年度　39%（409例/1,051採取）
2023年度　40%（436例/1,086採取）

2020年4月～2024年3月末までの採取ドナーのうち
NGS-SBT法検査データを持つのは
24.8%（1,094/4,411例）

④ドナーコーディネーター／各地区事務局に対する指導・教育体制

会議研修会を各地区で2～3回実施し、ドナーへの対応について専門家から学んだ。
コーディネーター養成研修会を開催し、3名の新規コーディネーターを認定・委嘱した。

⑤拠点病院との連携

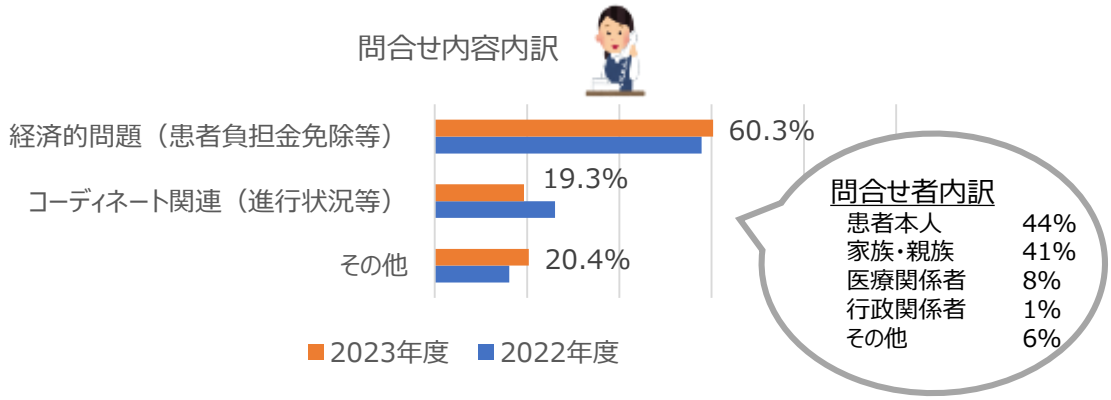
造血幹細胞移植推進拠点病院(※)開催の連絡会議やセミナー、当法人併催のブロック会議等で当法人職員やコーディネーター、医師ら関係者間で意見交換や各拠点病院の取り組みを情報共有するとともに、バンク事業の現況報告、新型コロナウイルス感染症対策をはじめとしたドナー安全委員会報告及び医療委員会報告を行った。

※：造血幹細胞移植推進拠点病院は、厚生労働省の造血幹細胞移植医療体制整備事業において、血液疾患患者さん全体の生存率の向上を目標に全国9ブロック12施設が設置されている。
北海道大学病院、東北大学病院、金沢大学病院、都立駒込病院、国立がん研究センター中央病院、虎の門病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、大阪公立大学医学部附属病院、岡山大学病院、愛媛県立中央病院、九州大学病院、琉球大学医学部附属病院

（3）その他報告

①患者擁護

全登録患者に参考資料「患者さんとご家族のための骨髄バンクハンドブック」を送付した。
また、「患者問い合わせ窓口」への電話照会は549件（前年度 593件）あり、患者負担金やコーディネート進捗状況などを説明した。



②コーディネート関連システムの運用保守等

当法人の基幹業務システムであり、日本赤十字社が管理運営する「造血幹細胞移植支援システム」の一部である「コーディネート支援システム」の運用・保守管理を継続して適切に実施した。
また日本赤十字社が管理運営し一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会（以降、JSTCT）認定移植医師らが利用する「造血幹細胞移植支援システム（医療機関支援機能）」に関して、システムメンテナンスや仕様変更に関する周知など、同社より当法人に依頼がある都度、診療科責任医師MLを用いた情報提供を迅速に対応した。また、同システムヘルプデスクに寄せられる問い合わせ事項のうち当法人コーディネートに関する回答案作成等、適宜対応した。

③JSTCT移植施設（診療科）認定に関する協力

JSTCT策定「非血縁者間造血 幹細胞移植を施行する診療科の認定基準」による認定申請受付を前年度に続き請け負った。当法人はJSTCT移植施設認定委員会より委託された申請受付窓口として、各診療科からの認定審査に関する問合せ対応や認定審査に関する事務手続きを担当した。

今年度は、移植認定の主体がJSTCTに移行後、初めての更新調査が多くの認定診療科に対し実施され、各施設の申請内容に関する確認等を請け負った。また、更新調査に至らない2019年度以降に認定された15診療科に対しては、年次調査票の発送、集計、調査結果報告を請け負った。
所定の移植件数に達しないLVC（Low volume center）認定の診療科からの申請（※）に関して、申請内容の確認とJSTCT移植施設認定委員会への審査依頼などを随時実施した。
計166例（前年度計104例）　※：「LVCにおける非血縁者間造血幹細胞移植施行のための申請」

④個人情報の取り扱い

コーディネーターが個人情報の取り扱いに関する規則を遵守しているか、セルフチェックを2回実施した。不十分な点を個別にフィードバックし改善を求めた。

⑤災害時対応
2024年元旦に発生した能登半島地震に伴い、直ちにドナー安否および進行可否確認を実施し、予定されたコーディネートを可能な限り実施した。一方、被災地の新規コーディネートは2か月弱見合わせた。
これまで部署ごとに対策していた安否確認に関する体制に自動安否確認システムを導入し、迅速に対処に移ることができるよう体制を整えた。

３．国際協力事業

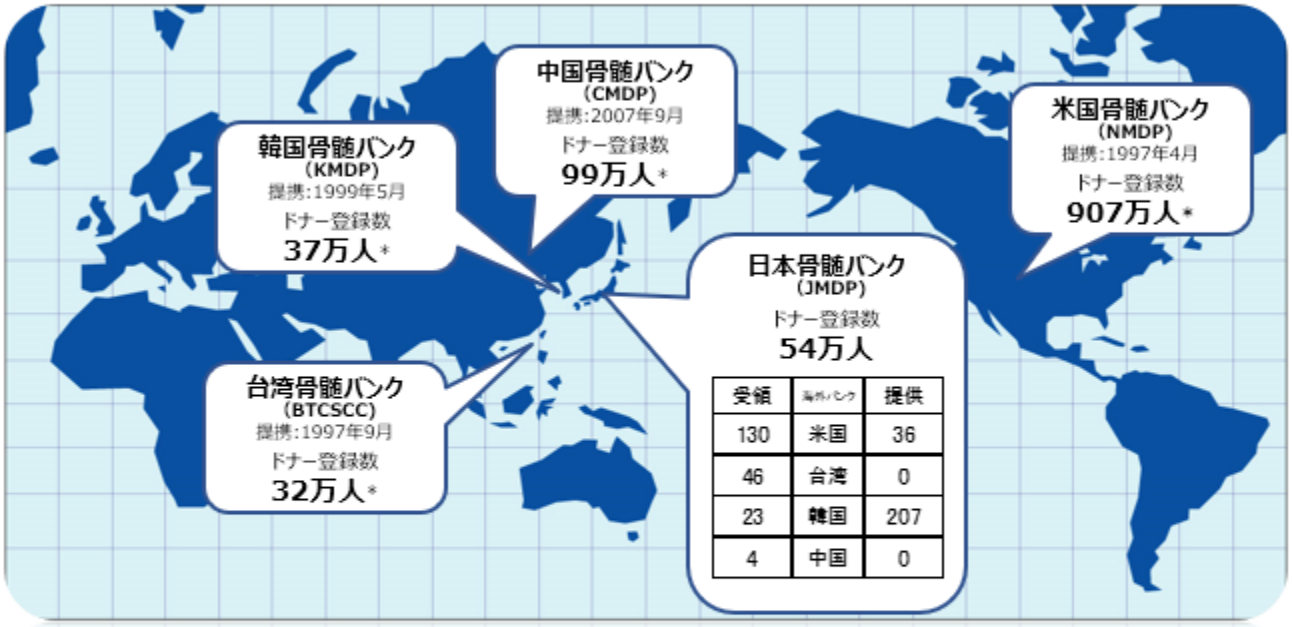
（１）国際コーディネートの推進

米国骨髄バンク（NMDP）、台湾骨髄バンク（BTCSCC）、韓国骨髄バンク（KMDP）、中国骨髄バンク（CMDP）と業務提携を維持し、相互国間の移植機会拡大に努めた。

（２）各国骨髄バンクとの連携強化

各国間での造血幹細胞提供をより円滑に実現するため、NMDP年次総会およびWMDA(世界骨髄バンク機構)秋季会議に参加した。また、国際協力事業の一環として、引き続き日本赤十字社の協力を得て、WMDAに日本のドナー登録者のHLA集計情報を定期的に提供した。

国際協力の状況



受領	海外バンク	提供
130	米国	36
46	台湾	0
23	韓国	207
4	中国	0

出典：
ドナー登録数は
*世界骨髄バンク機構（WMDA）より
2024年3月末

《提携していないバンクへの日本からの提供数　51例》（受領は上記の提携バンクからのみ）

国　名	提供数	国　名	提供数	国　名	提供数
香港	14	ベルギー	2	オランダ	1
ドイツ*	7	オーストリア	2	スイス	1
英国	5	カナダ	2	スペイン	1
フランス	4	イタリア	2	タイ	1
オーストラリア	4	シンガポール	2	アルゼンチン	1
ブラジル	2	トルコ	2		

*ドイツ7件のうち2件は、ドイツバンクを通じてロシアの移植施設へ提供

海外ドナー⇒国内患者：1例（前年度2例）　累計203例
国内ドナー⇒海外患者：6例（前年度4例）　累計296例

４．調査研究協力事業

（１）採取・移植データの解析

●造血細胞移植登録の一元管理

一般社団法人日本造血細胞移植データセンター（以下、JDCHCTという）における造血細胞移植登録の一元管理にあたって、当法人を介して実施された移植症例に関するTRUMP2連携データ送信の他、移植後100日登録ならびにDLI実施100日後登録の入力の依頼を担当した。また、JDCHCTからの依頼により、全国調査報告書掲載用データの作成や本登録の案内も随時行った。

●非血縁者間の骨髄または末梢血幹細胞採取・移植に関するデータおよびコーディネート状況に関する解析

非血縁者間骨髄または末梢血幹細胞移植の成績や採取に関わるデータなどを収集・解析し、医師や患者の治療方針決定に有効な情報や、採取関係者への情報提供に努めた。

（２）検体保存事業への協力

検体保存事業は2015年度より造血幹細胞提供支援機関（日本赤十字社）の業務と位置づけられ、当法人は同社からの協力依頼により医療機関への依頼文書、ドナーや患者への説明文書、採血管等の検体採取キットの発送業務を担当し、当法人を介した移植症例データの報告も同社に対し行った。また、医療機関からの同キットに関する問合せ窓口としても協力した。

５．患者負担金の軽減措置

（１）患者負担の検査料等の軽減

「患者負担軽減積立金」を財源に、1位選定ドナーの一部対象者に実施するHLAタイピングによる本人確認検査費用に充当した。また、患者登録時に実施いただくNGS-SBT法検査を当法人登録前に実施済であり、かつHLA検査が1回のみの場合にもHLAタイピングによる本人確認検査を実施いただくが、当該費用（1 件 8800 円、税抜）についても患者負担軽減積立金を財源として当法人が負担している。

今年度の当該検査費用総額は1037件で1003万8160 円（前年度1031件で998 万0080円）だった。

なお、本年度をもって同積立金は全て取り崩しており、以降は下記の患者負担金等支援基金をもってこれらの検査料の軽減を行っている。

（２）患者負担金等支援基金事業

①事業の内容

患者負担金等支援基金と国庫補助金を財源に、低所得者の患者負担金の全額または一部を免除した他、生活保護受給世帯の患者のドナー入院時差額ベッド代を当法人が負担した。また前述のとおり、患者負担軽減積立金の全額取り崩しに伴い、同積立金を財源に行っていた本人確認検査等の費用について、本年度途中から本基金を財源として引き続き当法人が負担している。

②審査委員会の開催

患者負担金等支援基金審査委員会を 2 回開催した。患者負担金減免申請内容と指定正味財産から一般正味財産への繰入れを審査した。

６．ドナー健康被害補償事業

（1）ドナー適格性判定基準の改訂と安全性向上のための施設への情報提供

ドナー安全と健康被害防止の観点から、ドナー安全委員会でドナー適格性判定基準の検討を行い改訂した。また、新型コロナウイルス感染症における基準等も改訂し、段階的に待機期間の短縮を図った。

採取マニュアルに関しては「自己血返血のタイミング」「骨髄液バッグのシーリング」等について追記した。遠心型血液成分分離装置の経年劣化による故障で採取当日に採取可否を検討した事例が続いたため、安全情報を発出し注意喚起した。また、採取担当医師への周知を図るために、ドナー安全講習を主催（2023年度は2回実施）した。

ドナー適格性判定基準　https://www.jmdp.or.jp/donor_judgment/

（2）ドナー健康被害事例の対応と団体傷害保険の適用

ドナーの健康被害報告時には適切なフォローアップを行うとともに、再発防止に向けた対策を検討・強化し、「安全情報」を発出して情報提供と注意喚起を行った。特に重篤な健康被害事例については、業務執行会議への報告とともにドナー安全委員会および外部専門医を招いた調査委員会において検証し、その結果を各採取施設や提供予定ドナーに情報公開した。また当該ドナーとの面談も実施した。

＜骨髄バンク団体障害保険申請・適用状況＞

保険の種別		2022年度	2023年度
入通院保険	申請	6	7
	適用	6	7
後遺障害保険	申請	5	6
	適用	1	4※

※内訳：2022年度申請2例, 2023年度申請2例（非該当1例，審査中3例）

７．委員会運営

各委員会は、事業を達成するために審議する会議体として、理事会の承認を得て理事長が設置しており、諮問委員会と特別諮問委員会の2種類に分かれている。所掌業務については、諮問委員会が寄附行為第4条第1項から第7号に規定する業務のうち理事長の委任を受けた事項の審議を行うこととされ、特別諮問委員会は、諮問委員会では対処しがたい特別な事項を処理することを目的として設置している。

（１）ドナー安全委員会　開催：3回／メール審議：随時

ドナーの安全および移植医療の向上を図るため、非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞採取の認定基準に関連する事項やドナー適格性判定基準等を検討した。新規施設からの申請を受け、認定基準に基づき審査した結果、骨髄採取施設2施設、末梢血幹細胞採取施設8施設が新たに認定された。
「骨髄・末梢血幹細胞提供者由来の病的意義のある情報に関する対応」では、本委員会のワーキンググループ（※7）で移植施設からの報告症例を審査した。その結果、情報開示する結論となり、面談を実施する予定である。

※7：「非血縁者間(骨髄・末梢血幹細胞)採取・移植に係る遺伝学的情報開示に関する審査会議」

（２）医療委員会　開催：1回 ／メール審議：随時

「新型コロナウイルス特別対応『凍結申請』継続の可否」、「ドナーの情報提供終了に関する可否」、「患者さんとご家族のための骨髄バンクハンドブック改訂」等他、プロダクトの凍結やインシデント事例について審議した。
造血幹細胞の凍結審査を29件（コロナ特別対応を除く）、DLI申請（審査要件数） 19件をメール審議した。当委員会が運営する「造血幹細胞移植に関する主治医相談窓口」に対する主治医からの相談（9件）についても案件発生の都度、迅速かつ適切に回答した。
また、当委員会が運営する主治医相談窓口におけるHLA専門家の先生方には、2026年度本格導入を目指すスワブ検査＆オンライン登録に向けたプロジェクトにおいて、都度、知見を伺うなど協力いただいた。

（３）倫理委員会　メール審議：随時

当法人保有のコーディネートデータに関する利用申請、ならびに当法人事業推進に関する研究申請についてを随時メール審議した。また、過去に承認された研究申請に関する論文や抄録の報告ならびに追加の申請等についても随時処理した。

（４）国際委員会　メール審議：随時

海外患者へのプロダクトの凍結および運搬の対応を委員長に相談した。

（５）広報推進委員会

今期の開催はなかった。

８．財政運営

（１）決算の状況

前年度に比べ移植件数が増加したことに加え、遺贈による寄付等が増えたことにより受取寄付金が大幅に増加した。一方、支出についても、引き続き見直しや絞り込みを行った。

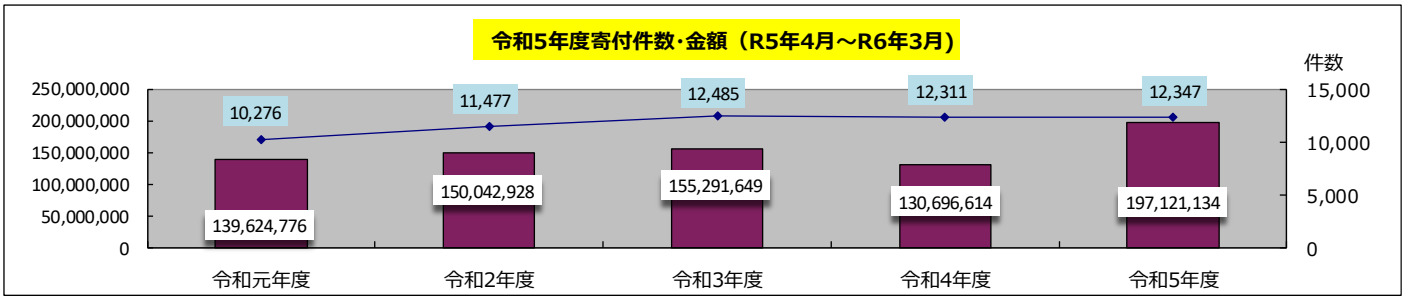
結果、経常収益は１５億６５１７万円、経常費用は１４億２４９２万円となり、最終的な当期経常増減額は１億４０２４万円の黒字となった。

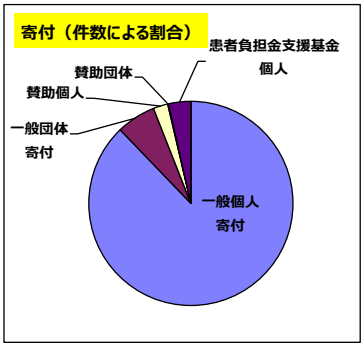
なお、剰余金については、特定費用準備資金（スワブオンライン登録対応資産）及び特定資産取得・改良資金（コーディネート支援システム改良等資産）として積立を行った。

（２）寄付金の動向

2023年(令和5年）3月末寄付金集計　　**＊速報値であり、変更する場合があります。**

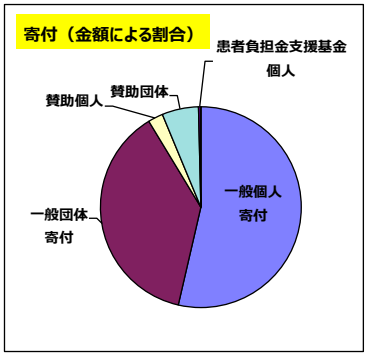
令和元年度（2019）		令和2年度（2020）		令和3年度（2021）		令和4年度（2022）		**令和5年度（2023）**		
571	5,760,036	562	6,442,744	627	5,656,315	710	5,835,800	**723**	**33,578,014**	**4月**
502	6,643,648	559	6,477,558	610	4,749,425	728	7,501,247	**746**	**15,578,631**	**5月**
500	14,178,298	622	5,971,662	650	5,049,335	716	9,219,254	**770**	**7,592,223**	**6月**
1,525	15,709,643	1,569	16,283,490	1,774	17,651,382	1,400	18,590,366	**1,141**	**11,043,571**	**7月**
807	10,383,872	957	18,094,252	1,210	7,894,853	1,146	11,154,242	**971**	**7,662,969**	**8月**
696	10,420,579	758	10,695,805	876	8,623,651	1,043	8,197,060	**1,059**	**12,726,506**	**9月**
542	5,223,777	628	7,877,318	735	9,244,868	815	7,681,994	**820**	**8,517,701**	**10月**
580	7,107,935	622	20,597,629	719	6,615,601	847	6,299,086	**838**	**9,606,232**	**11月**
2,094	26,438,249	2,452	30,275,232	2,333	58,269,578	1,939	22,493,263	**2,106**	**43,563,097**	**12月**
898	7,762,384	1,138	7,849,253	1,182	9,218,894	1,161	15,526,778	**1,503**	**22,804,297**	**1月**
854	14,153,119	833	7,407,518	858	9,403,773	1,013	6,618,143	**849**	**7,443,399**	**2月**
707	15,843,236	777	12,070,467	911	12,913,974	793	11,579,381	**821**	**17,004,494**	**3月**
10,276	139,624,776	11,477	150,042,928	12,485	155,291,649	12,311	130,696,614	**12,347**	**197,121,134**	**合計**





一般個人寄付	10,983
一般団体寄付	414
賛助個人	571
賛助団体	8
患者負担金支援基金 個人	371
患者負担金支援基金 団体	0
	12,347

①寄付件数内訳
（令和5年4月～令和6年3月）



一般個人寄付	148,898,265
一般団体寄付	35,586,769
賛助個人	9,730,000
賛助団体	1,900,000
患者負担金支援基金 個人	1,006,100
患者負担金支援基金 団体	0
	197,121,134

②寄付金額内訳
（令和5年4月～令和6年3月）

９．関係機関との連携

（１）法律に基づく関係機関との調整

法律に基づく「造血幹細胞移植事業関係者」(※)とのコミュニケーションを密に して、バンク事業を遂行した。一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会（JSTCT）が主催した「拠点病院／JSTCTの連携に関するWEB会議」（2023年8月3日）に出席し、12施設に増えた拠点病院間で情報や意見を交換した。

※：支援機関(JRC)、各臍帯血バンク、一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会、一般社団法人日本造血細胞移植データセンター

（２）造血幹細胞移植推進事業フォーラム

第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会は2024年3月に開催された。同総会内プログラム「造血幹細胞移植推進事業フォーラム」では、当法人の取り組み等を発表した。

Ⅲ．財務の概要

１．貸借対照表 2024年3月31日現在

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	346,004,084	279,978,653	66,025,431
未収金	125,160,332	146,460,296	△ 21,299,964
前払金	19,060,366	15,920,501	3,139,865
立替金	465,376	191,142	274,234
未収消費税等	799,033	0	799,033
貸倒引当金	△ 626,080	△ 1,071,220	445,140
流動資産合計	490,863,111	441,479,372	49,383,739
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	651,565,325	651,565,325	0
預金	9,434,675	9,434,675	0
基本財産合計	661,000,000	661,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	310,246,800	322,693,500	△ 12,446,700
患者負担金軽減積立資産	0	6,917,336	△ 6,917,336
事務局移転積立資産	21,000,000	21,000,000	0
松隈基金積立資産	27,507,297	27,497,297	10,000
財政安定化積立資産	40,000,000	40,000,000	0
スワブオンライン登録対応資産	66,000,000	0	66,000,000
コーディネート支援システム改良等資産	67,000,000	0	67,000,000
患者支援基金積立資産	164,677,141	167,596,465	△ 2,919,324
特定資産合計	696,431,238	585,704,598	110,726,640
(3) その他固定資産			
建物付属設備	413,971	444,480	△ 30,509
什器備品	8,581,139	5,082,187	3,498,952
ソフトウエア	2,201,657	1,797,458	404,199
敷金	25,922,756	25,734,356	188,400
その他固定資産合計	37,119,523	33,058,481	4,061,042
固定資産合計	1,394,550,761	1,279,763,079	114,787,682
資産合計	1,885,413,872	1,721,242,451	164,171,421
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
未払金	102,542,688	65,155,908	37,386,780
前受金	12,078,800	12,805,500	△ 726,700
預り金	18,689,417	15,952,766	2,736,651
賞与引当金	37,177,977	37,281,120	△ 103,143
流動負債合計	170,488,882	131,195,294	39,293,588
2. 固定負債			
退職給付引当金	310,246,800	322,693,500	△ 12,446,700
固定負債合計	310,246,800	322,693,500	△ 12,446,700
負債合計	480,735,682	453,888,794	26,846,888
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	761,677,141	764,596,465	△ 2,919,324
指定正味財産合計	761,677,141	764,596,465	△ 2,919,324
(うち基本財産への充当額)	(597,000,000)	(597,000,000)	0
(うち特定資産への充当額)	(164,677,141)	(167,596,465)	△ 2,919,324
2. 一般正味財産	643,001,049	502,757,192	140,243,857
(うち基本財産への充当額)	(64,000,000)	(64,000,000)	0
(うち特定資産への充当額)	(221,507,297)	(95,414,633)	126,092,664
正味財産合計	1,404,678,190	1,267,353,657	137,324,533
負債及び正味財産合計	1,885,413,872	1,721,242,451	164,171,421

2．正味財産増減計算書　2023年4月1日から2024年3月31日まで

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,030,000	2,119,173	△ 89,173
基本財産受取利息	2,030,000	2,119,173	△ 89,173
受取寄付金等	200,040,458	130,051,814	69,988,644
受取寄付金	184,485,034	121,100,014	63,385,020
受取寄付金振替額	3,925,424	901,800	3,023,624
受取賛助会費	11,630,000	8,050,000	3,580,000
事業収益	32,696,000	32,696,000	0
受託業務収益	32,696,000	32,696,000	0
受取補助金等	496,095,000	492,909,000	3,186,000
受取国庫補助金	496,095,000	492,909,000	3,186,000
受取患者負担金	232,529,020	220,153,195	12,375,825
受取患者登録料	100,000	50,000	50,000
受取コーディネート料	124,018,000	120,651,000	3,367,000
受取血液検査料	53,838,020	54,601,945	△ 763,925
受取損害保険料	27,325,000	26,325,000	1,000,000
受取骨髄採取料	27,248,000	18,525,250	8,722,750
医療保険財源収益	597,808,000	578,516,000	19,292,000
医療保険財源収益	597,808,000	578,516,000	19,292,000
雑収益	3,971,662	2,563,438	1,408,224
受取利息	21	26	△ 5
雑収益	3,971,641	2,563,412	1,408,229
経常収益計	1,565,170,140	1,459,008,620	106,161,520
(2) 経常費用			
事業費	1,372,390,080	1,385,289,607	△ 12,899,527
給料手当	415,690,290	459,021,146	△ 43,330,856
臨時雇賃金	106,715,310	106,712,526	2,784
退職給付費用	30,672,755	32,916,676	△ 2,243,921
法定福利費	72,956,831	76,927,955	△ 3,971,124
福利厚生費	857,403	1,045,920	△ 188,517
会議費	509,761	1,304,372	△ 794,611
旅費交通費	60,322,357	62,854,765	△ 2,532,408
通信運搬費	92,993,736	104,175,070	△ 11,181,334
減価償却費	2,106,815	3,540,381	△ 1,433,566
消耗什器備品費	2,197,020	933,548	1,263,472
消耗品費	11,929,404	11,872,862	56,542
印刷製本費	23,071,642	18,685,319	4,386,323
光熱水料費	4,519,716	5,166,734	△ 647,018
賃借料	43,850,975	45,053,999	△ 1,203,024
リース料	274,560	274,560	0
支払保険料	30,650,915	28,031,715	2,619,200
租税公課	97,400	232,200	△ 134,800
委託費	64,124,921	60,727,356	3,397,565
支払手数料	123,475,540	110,154,483	13,321,057
システム業務委託費	63,468,555	33,817,415	29,651,140
雑費	4,730,191	521,812	4,208,379
支払血液検査料	149,326,185	154,075,870	△ 4,749,685
骨髄採取等関連費用	19,592,358	19,213,457	378,901
患者負担金免除額	48,522,780	47,915,186	607,594
貸倒引当金繰入額	△ 267,340	114,280	△ 381,620
管理費	52,536,195	48,689,766	3,846,429
役員報酬	272,316	224,867	47,449
給料手当	17,915,532	18,823,761	△ 908,229
退職給付費用	1,454,245	1,889,024	△ 434,779
法定福利費	3,377,606	3,353,034	24,572
福利厚生費	250,634	294,772	△ 44,138
会議費	97,582	51,652	45,930
旅費交通費	451,948	410,502	41,446
通信運搬費	1,932,975	2,288,163	△ 355,188
減価償却費	1,883,335	1,914,077	△ 30,742
消耗什器備品費	34,650	41,990	△ 7,340
消耗品費	1,020,425	687,946	332,479
印刷製本費	429,704	277,563	152,141
光熱水料費	532,835	572,649	△ 39,814
賃借料	5,200,212	5,200,212	0
リース料	241,560	543,170	△ 301,610
支払保険料	963,483	585,452	378,031
租税公課	109,200	142,330	△ 33,130
支払手数料	16,356,197	11,343,257	5,012,940
雑費	11,756	45,345	△ 33,589
経常費用計	1,424,926,275	1,433,979,373	△ 9,053,098
当期経常増減額	140,243,865	25,029,247	115,214,618
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
什器備品除却損	8	0	8
経常外費用計	8	0	8
当期経常外増減額	△ 8	0	△ 8
他会計振替前当期一般正味財産増減額	140,243,857	25,029,247	115,214,610
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	140,243,857	25,029,247	115,214,610
一般正味財産期首残高	502,757,192	477,727,945	25,029,247
一般正味財産期末残高	643,001,049	502,757,192	140,243,857
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取寄付金等			
受取寄付金	1,006,100	1,546,600	△ 540,500
一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	3,925,424	901,800	3,023,624
当期指定正味財産増減額	△ 2,919,324	644,800	△ 3,564,124
指定正味財産期首残高	764,596,465	763,951,665	644,800
指定正味財産期末残高	761,677,141	764,596,465	△ 2,919,324
Ⅲ　正味財産期末残高	1,404,678,190	1,267,353,657	137,324,533

Ⅳ. コーディネートに関する資料集

●国内コーディネート件数

行程	名 称		件 数	前年件数	前年比(%)	北海道	東北	関東	中部	近畿	中四国	九州
初 期	開始シート送付件数		20,138	22,738	89%							
	開始シート受理件数		16,693	20,000	83%							
確認検査	地区開始件数		7,395	9,337	79%	221	546	2954	825	1269	703	877
	面談実施件数		583	631	92%	19	35	208	44	139	64	74
	確認検査実施件数		4,605	4,539	101%	133	320	1819	551	755	453	574
	再検査実施件数		736	712	103%	24	59	302	88	101	76	86
ドナー選定	ドナー選定件数		1,404	1,429	98%	42	85	518	185	245	143	186
最終同意	最終同意実施件数（本人）		1,316	1,284	102%	38	83	499	168	219	145	164
採取・移植	術前健診実施数		1,257	1,230	102%	38	77	496	142	211	138	155
	術前健診再検査実施数		203	224	91%	6	7	87	22	26	31	24
	採取件数	骨髄	773	748	103%	19	49	313	92	122	85	93
		末梢血幹細胞	319	307	104%	11	22	117	31	63	36	39
	採取件数計		1,092	1,055	104%	30	71	430	123	185	121	132

●コーディネート期間

行程		項目名	From	To	全国 中央値	平均値	最頻値	最大値	最小値	地区別中央値 北海道	東北	関東	中部	近畿	中四国	九州
初期		初期行程	アンケート送付日（開始シート送付日）	判定日	3.0	4.9	1	91	0							
		開始シート回収	アンケート送付日（開始シート送付日）	アンケート受理日（開始シート受理日）	3.0	4.1	1	91	0							
		初期判定	アンケート受理日（開始シート受理日）	判定日	0.0	0.8	0	42	0							
確認検査		確認検査行程	地区コーディネート開始日（確認検査行程開始日と同日）	確認検査行程終了日 再検査も含めた最終的な判定日と同一	28.0	30.7	21	457	0	28	30	34	35	26	25	27
		地区開始	地区コーディネート開始日（確認検査行程開始日と同日）	コーディネーター選定日	0.0	2.1	0	92	0	1	1	3	3	1	1	1
		確認検査日程調整	コーディネーター選定日	確認検査予約日	7.0	9.2	7	85	0	10	10	11	8	7	8	8
		確認検査判定	採血日	確認検査行程終了日 再検査も含めた最終的な判定日と同一	6.0	10.1	2	441	2	8	9	12	12	7	9	8
ドナー選定		ドナー選定	確認検査結果報告	最終同意行程開始日	8.0	14.2	1	182	1							
最終同意		最終同意行程	最終同意行程開始日（ドナー１位選定と同日）	総合判定	20.0	21.5	14	95	4	18	20	22	22	22	18	23
		最終同意日程調整	最終同意行程開始日（ドナー１位選定と同日）	最終同意日程確定（本人）（ドナーへの報告日）	8.0	9.3	7	77	0	6	8	11	10	8	8	10
		最終同意判定	最終同意面談日（本人）	総合判定	2.0	2.6	1	34	0	2	2	3	3	2	3	3
採取・移植		採取・移植行程	総合判定日	採取日	40.0	43.9	36	253	18	44	51	43	46	43	43	44
		採取日程調整	総合判定日	採取日程確定（移植施設へのFAX送信日）	0.0	3.3	0	194	0	4	3	3	4	4	3	2
		術前健診	採取日程確定（移植施設へのFAX送信日）	術前健診日	8.0	11.5	7	87	0	13	15	11	14	10	10	13
		計画書判定	術前健診日	採取計画書判定日（判定日または再判定日）	5.0	5.6	1	54	0	3	8	6	5	4	6	4
		採取	採取計画書判定日（判定日または再判定日）	採取日	25.0	26.1	28	88	6	29	28	25	26	27	25	26
フォローアップ		フォローアップ行程	採取日	フォローアップ完了（電話フォローアップ受理日）	29.0	33.2	28	383	6	37	32	31	33	38	37	31
		入院	採取日	退院日	2.0	1.7	2	5	1	2	2	2	2	2	2	2
		フォローアップ	退院日	フォローアップ完了（電話フォローアップ受理日）	28.0	31.5	27	381	4	35	31	29	31	36	35	30
全般	骨髄	全般_患者	患者登録日	採取日	120.0	133.6	91	767	56							
		全般_ドナー	ドナー指定/確定日	採取日	109.0	113.7	99	336	47	112	123	117	114	109	104	113
	末梢血幹細胞	全般_患者	患者登録日	採取日（１日目）	112.0	125.8	92	868	56							
		全般_ドナー	ドナー指定/確定日	採取日（１日目）	103.0	105.5	105	290	41	96	114	107	117	104	95	102
	全て	全般_患者	患者登録日	採取日（１日目）	118.0	131.3	98	868	56							
		全般_ドナー	ドナー指定/確定日	採取日（１日目）	106.0	111.3	98	336	41	106	120	114	115	107	101	109

認定施設別　移植・採取件数（2024年3月現在）

2022年4月1日～2024年3月31日、直近2年間の状況

認定施設名	P	移植	採取
旭川医科大学病院		3	4
旭川赤十字病院	P	4	2
札幌医科大学附属病院	P	11	11
市立旭川病院	P	7	4
市立函館病院	P	16	3
社会医療法人北楡会 札幌北楡病院	P	20	27
北海道大学病院	P	46	20
弘前大学医学部附属病院		2	7
青森県立中央病院	p	9	13
秋田大学医学部附属病院	p	20	9
岩手医科大学附属病院	p	12	7
宮城県立がんセンター	p	3	9
宮城県立こども病院		6	1
石巻赤十字病院		–	3
東北大学病院	P	16	28
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター	P	5	20
山形大学医学部附属病院	P	15	11
（一財）太田綜合病院附属太田西ノ内病院	P	1	9
公立大学法人福島県立医科大学附属病院	P	28	15
茨城県立こども病院	P	4	6
総合病院土浦協同病院		1	6
筑波大学附属病院	P	20	14
自治医科大学附属病院	P	35	28
獨協医科大学病院	P	9	8
群馬県済生会前橋病院		22	15
群馬大学医学部附属病院	P	7	15
(地独)埼玉県立病院機構埼玉県立がんセンター		13	33
埼玉医科大学国際医療センター	P	4	7
埼玉医科大学総合医療センター	P	4	9
埼玉県立小児医療センター		17	–
自治医科大学附属さいたま医療センター	P	63	27
防衛医科大学校病院	P	5	15
（地独）総合病院国保旭中央病院	P	7	6
医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	P	9	6
国際医療福祉大学成田病院	P	–	6
成田赤十字病院		9	16
順天堂大学医学部附属浦安病院		0	0
千葉県こども病院		0	–
千葉市立青葉病院	P	16	14
千葉大学医学部附属病院	P	21	38
東京慈恵会医科大学附属柏病院	P	8	16
（国研）国立国際医療研究センター病院		3	10
（地独）東京都健康長寿医療センター	P	4	27
（地独）東京都立病院機構東京都立駒込病院	P	140	43
杏林大学医学部付属病院	P	7	12
学校法人聖路加国際大学聖路加国際病院		14	9
慶應義塾大学病院	P	17	17
国家公務員共済組合連合会虎の門病院	P	12	35
国立がん研究センター中央病院	P	49	26
国立成育医療研究センター病院		20	11
順天堂大学医学部附属順天堂医院	P	9	8
昭和大学病院	P	7	20
帝京大学医学部附属病院		3	7
東京医科歯科大学病院		18	10
東京医科大学病院		6	10
東京慈恵会医科大学附属病院	P	8	14
東京女子医科大学病院	P	2	18
東京大学医科学研究所附属病院		1	4
東京大学医学部附属病院	P	17	10
東京都済生会中央病院		6	12
東京都立小児総合医療センター		10	–
東京都立多摩総合医療センター		0	8
独立行政法人国立病院機構東京医療センター		0	6
日本医科大学付属病院		17	21
日本赤十字社医療センター	P	6	19
日本大学医学部附属板橋病院	P	5	23
(大)横浜市立大学附属市民総合医療センター	P	16	17
横浜市立市民病院		2	6

認定施設名	P	移植	採取
横浜市立大学附属病院		11	14
国家公務員共済組合連合会虎の門病院分院	P	3	11
神奈川県立こども医療センター		5	–
神奈川県立病院機構神奈川県立がんセンター	P	16	39
聖マリアンナ医科大学病院	P	0	6
東海大学医学部付属病院	P	33	23
新潟県立がんセンター新潟病院		1	5
新潟大学医歯学総合病院	P	12	13
長岡赤十字病院		3	1
山梨県立中央病院	P	5	4
山梨大学医学部附属病院	P	15	6
（独）国立病院機構まつもと医療センター	P	18	21
信州大学医学部附属病院	P	20	15
長野赤十字病院	P	14	7
富山県立中央病院	P	7	3
富山赤十字病院	P	23	11
富山大学附属病院	P	2	7
金沢医科大学病院		–	0
金沢大学附属病院	P	22	14
石川県立中央病院		11	14
福井大学医学部附属病院	P	7	4
岐阜市民病院	P	11	14
岐阜大学医学部附属病院		7	6
（地独）静岡県立病院機構静岡県立総合病院		11	6
静岡県立こども病院		4	2
静岡県立静岡がんセンター	P	13	20
静岡赤十字病院		4	3
浜松医科大学医学部附属病院	P	3	11
浜松医療センター	P	9	10
（独）国立病院機構名古屋医療センター	P	11	14
愛知医科大学病院		1	2
愛知県がんセンター		0	4
愛知県厚生農業協同組合連合会江南厚生病院	P	7	5
安城更生病院	P	24	20
日本赤十字社愛知医療ｾﾝﾀｰ名古屋第一病院	P	27	25
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	P	1	7
豊橋市民病院	P	5	4
名古屋市立大学病院	P	8	3
名古屋大学医学部附属病院	P	23	14
名古屋掖済会病院		–	4
藤田医科大学病院	P	0	0
伊勢赤十字病院		5	1
三重大学医学部附属病院	P	10	9
滋賀医科大学医学部附属病院	P	25	14
大津赤十字病院	P	8	8
（地独）京都市立病院機構京都市立病院	P	6	10
京都鞍馬口医療センター	P	1	8
京都大学医学部附属病院	P	43	5
京都第一赤十字病院		7	7
京都第二赤十字病院	P	4	8
京都府立医科大学附属病院	P	8	15
社会福祉法人京都社会事業財団　京都桂病院		7	7
パナソニック健康保険組合松下記念病院	P	–	2
一般財団法人住友病院	P	–	16
関西医科大学附属病院		9	7
近畿大学病院	P	33	1
公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院	P	5	12
公益財団法人日本生命済生会日本生命病院	P	3	8
高槻赤十字病院		0	3
社会医療法人生長会府中病院	P	5	3
大阪医科薬科大学病院		3	6
大阪公立大学医学部附属病院	P	38	49
大阪市立総合医療センター	P	28	8
大阪赤十字病院	P	25	15
大阪大学医学部附属病院	P	22	21
大阪府立病院機構大阪国際がんセンター	P	55	14
大阪府立病院機構大阪母子医療センター	P	1	7
地方独立行政法人りんくう総合医療センター	p	6	7

認定施設名	P	移植	採取
地方独立行政法人市立吹田市民病院	p	9	8
社会医療法人神鋼記念会　神鋼記念病院	p	2	6
神戸市立医療センター中央市民病院	p	14	2
神戸大学医学部附属病院	p	18	16
姫路赤十字病院	p	0	18
兵庫医科大学病院	p	5	19
兵庫県立がんセンター	p	4	7
兵庫県立こども病院		13	–
兵庫県立尼崎総合医療センター	p	4	7
近畿大学奈良病院		3	2
天理よろづ相談所病院		0	2
奈良県立医科大学附属病院	p	4	9
奈良県総合医療センター	p	–	0
日本赤十字社和歌山医療センター	p	1	5
和歌山県立医科大学附属病院	p	12	7
鳥取県立中央病院		2	2
鳥取大学医学部附属病院	p	14	7
独立行政法人国立病院機構米子医療センター	p	1	3
松江赤十字病院	p	4	4
島根県立中央病院	p	0	10
島根大学医学部附属病院	p	8	5
岡山大学病院	P	28	30
国立病院機構岡山医療センター		15	4
川崎医科大学附属病院	p	5	4
大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院	p	4	26
呉医療センター・中国がんセンター		5	3
広島赤十字・原爆病院	p	41	16
広島大学病院	p	27	20
山口大学医学部附属病院	p	3	16
国立大学法人 徳島大学病院	p	11	4
徳島赤十字病院	p	2	4
香川大学医学部附属病院	p	9	10
高松赤十字病院	p	9	8
愛媛県立中央病院	p	1	9
愛媛大学医学部附属病院	p	12	5
松山赤十字病院	p	5	7
高知県高知市病院企業団立高知医療センター		7	9
高知大学医学部附属病院	p	3	9
医療法人原三信病院	p	0	0
久留米大学病院	p	1	6
九州大学病院	p	30	26
国家公務員共済組合連合会浜の町病院	p	8	4
国立病院機構九州医療センター	p	5	11
産業医科大学病院	p	5	7
社会医療法人雪の聖母会　聖マリア病院		0	6
小倉記念病院	P	9	5
独立行政法人国立病院機構九州がんセンター		6	11
独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院	P	7	8
福岡赤十字病院		8	4
北九州市立医療センター	P	2	9
北九州市立八幡病院		0	0
佐賀大学医学部附属病院		2	3
地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館	P	7	10
熊本大学病院	P	7	21
国立病院機構熊本医療センター	p	9	23
佐世保市総合医療センター		2	9
長崎大学病院	p	16	15
大分県立病院	p	7	9
大分大学医学部附属病院	p	6	9
宮崎県立宮崎病院	p	2	10
宮崎大学医学部附属病院	p	10	10
(独)国立病院機構 鹿児島医療センター		8	5
公益財団法人慈愛会今村総合病院		5	3
鹿児島大学病院	P	9	13
社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院		4	15
琉球大学病院	p	8	18
海外		10	0

2024年3月末現在の認定状況に基づき表示

移植「－」：採取のみの認定施設（移植未認定）
採取「－」：採取免除の移植認定施設
P：末梢血幹細胞採取認定施設

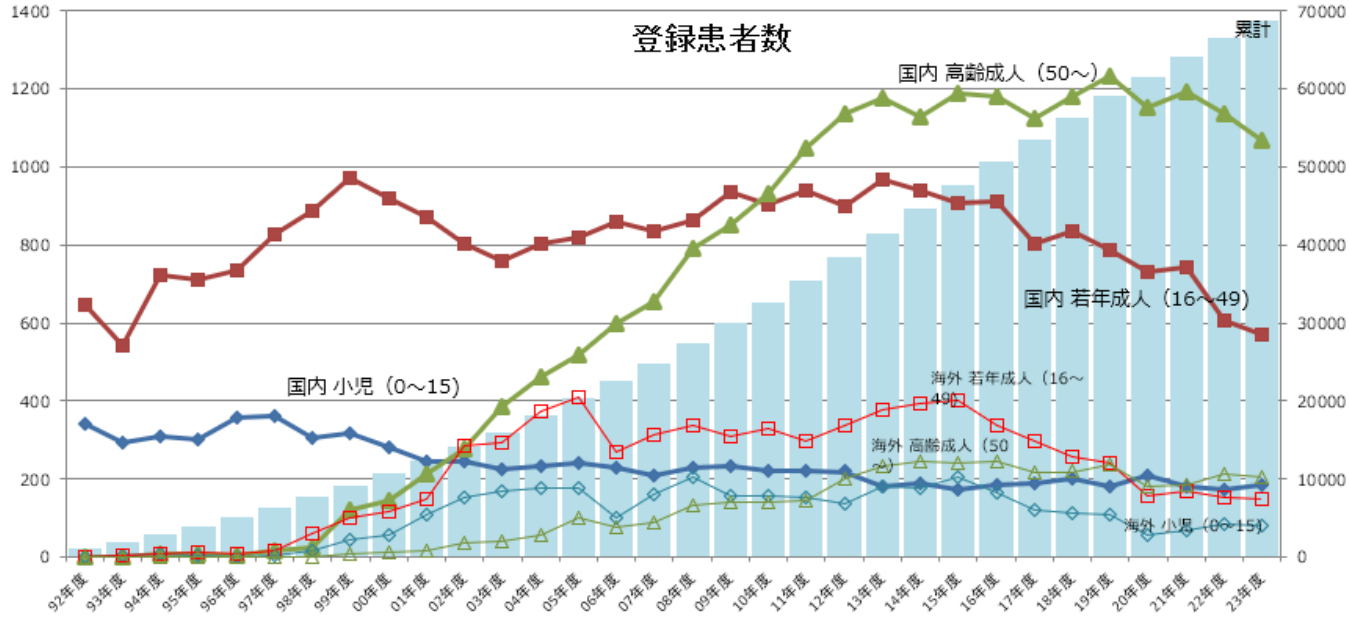
年代別　登録患者数

国内登録患者

年度	92年度	93年度	94年度	95年度	96年度	97年度	98年度	99年度	00年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
国内 小児（0～15）	343	294	311	302	359	360	307	317	283	245	245	225	234	243	231	208	228	232	221	220	219	182	189	173	183	190	199	180	210	180	171	184
国内 若年成人（16～49）	645	544	722	709	733	828	889	970	921	872	804	757	804	819	858	834	863	936	904	938	898	967	938	906	911	804	834	786	729	742	605	571
国内 高齢成人（50～）	0	0	8	7	3	18	23	121	143	211	279	384	462	519	599	653	792	850	930	1048	1135	1175	1129	1190	1179	1124	1179	1232	1151	1191	1135	1067
国内 合計	988	838	1041	1018	1095	1206	1219	1408	1347	1328	1328	1366	1500	1581	1688	1695	1883	2018	2055	2206	2252	2324	2256	2269	2273	2118	2212	2198	2090	2113	1911	1822

海外登録患者

年度	92年度	93年度	94年度	95年度	96年度	97年度	98年度	99年度	00年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
海外 小児（0～15）	1	4	7	5	0	5	16	44	56	109	151	167	177	176	100	160	204	156	158	152	137	179	176	204	164	122	113	109	57	67	86	80
海外 若年成人（16～49）	1	4	7	11	9	17	62	100	118	150	286	295	374	409	268	313	339	310	331	298	339	379	395	402	339	296	259	240	158	168	151	149
海外 高齢成人（50～）	0	0	1	0	1	0	1	8	14	16	35	42	57	102	78	87	134	140	140	145	201	233	245	242	246	218	219	236	179	186	212	203
海外 合計	2	8	15	16	10	22	79	152	188	275	472	504	608	687	446	560	677	606	629	595	677	791	816	848	749	636	591	585	394	421	449	432



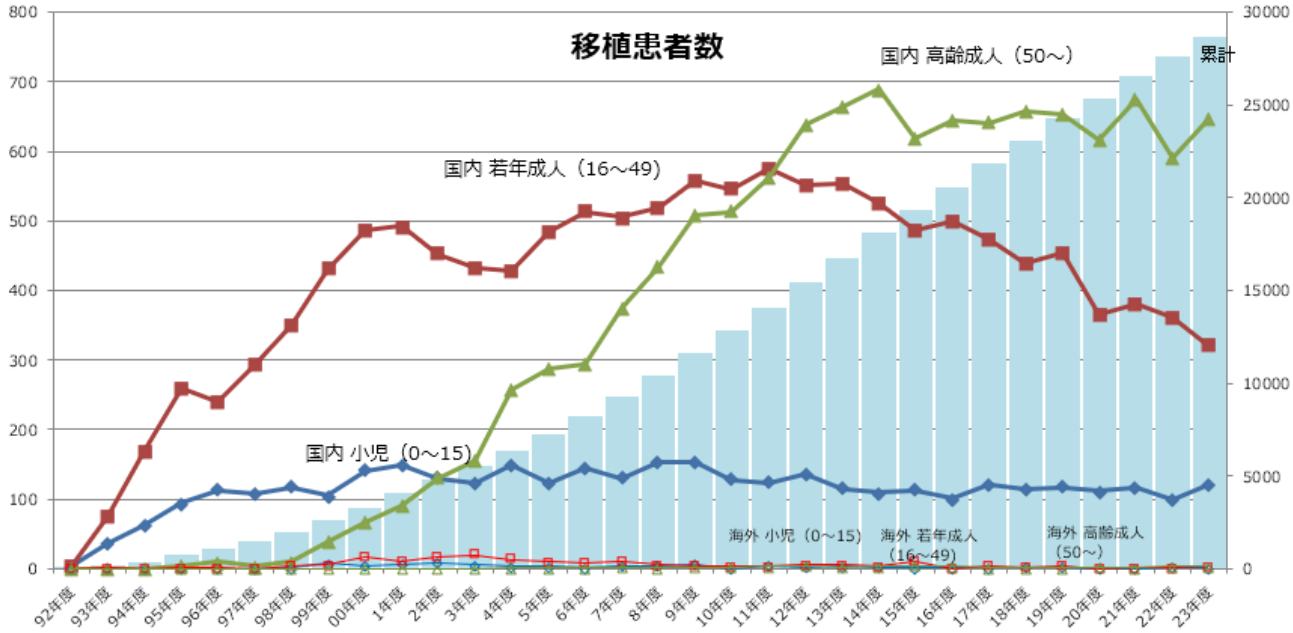
年代別　移植患者数

国内移植患者

年度	92年度	93年度	94年度	95年度	96年度	97年度	98年度	99年度	00年度	1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
国内 小児（0～15）	3	36	63	94	113	108	117	105	141	148	130	123	148	122	145	130	153	153	128	124	136	115	109	113	101	120	114	117	112	116	100	120
国内 若年成人（16～49）	5	75	168	259	239	294	350	431	487	492	453	432	428	484	513	505	519	557	546	575	552	554	525	487	500	473	438	454	366	381	361	321
国内 高齢成人（50～）	0	0	0	4	10	3	10	38	67	91	130	156	258	288	294	375	435	509	513	563	638	663	689	618	645	641	657	653	616	674	591	646
国内 合計	8	111	231	357	362	405	477	574	695	731	713	711	834	894	952	1010	1107	1219	1187	1262	1326	1332	1323	1218	1246	1234	1209	1224	1094	1171	1052	1087

海外移植患者

年度	92年度	93年度	94年度	95年度	96年度	97年度	98年度	99年度	00年度	1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
海外 小児（0～15）	0	0	0	0	0	0	1	8	4	7	9	6	3	3	1	4	4	7	0	4	2	3	2	1	1	1	2	2	0	0	2	1
海外 若年成人（16～49）	0	1	0	1	1	0	4	6	17	11	17	20	13	10	9	11	6	4	3	3	6	6	3	11	0	5	2	5	0	1	1	3
海外 高齢成人（50～）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	1	2	2	3	4	2	3	4	3	1	1	1	2	1	0	3
海外 合計	0	1	0	1	1	0	5	14	21	18	26	26	17	14	11	17	11	13	5	10	12	11	8	16	4	7	5	8	2	2	3	7

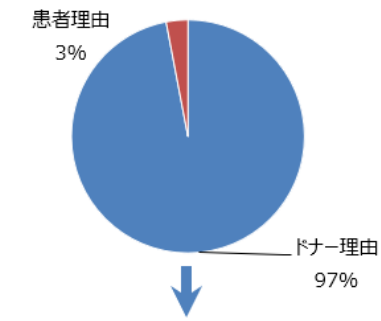


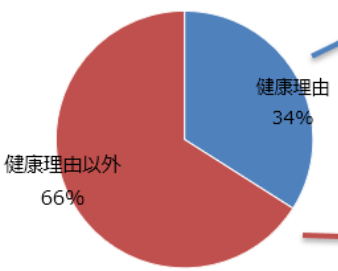
理由別　コーディネート終了件数　2023年度実績

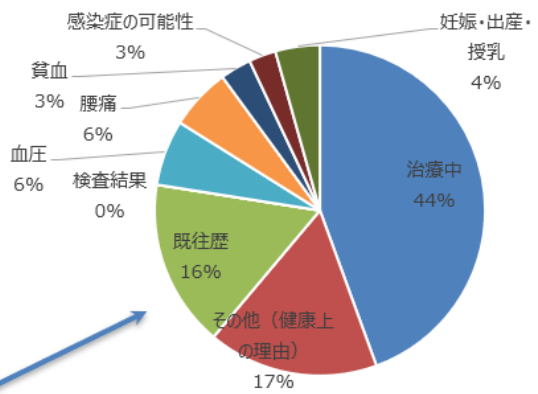
	終了件数		初期		確認検査前		確認検査後		ドナー選定		最終同意面談前		最終同意面談後		採取計画書判定前		採取計画書判定後	
					（地区開始～確認検査実施前）		（確認検査実施～確認検査判定）		（確認検査判定後～ドナー選定前）		（ドナー選定～最終同意面談実施前）		（最終同意面談実施後～総合判定）		（最終同意確認後～術前健診判定）		（術前健診判定後～採取）	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
合計	19406	100%	12990	100%	2362	100%	859	100%	2876	100%	101	100%	26	100%	141	100%	51	100%
ドナー理由終了	15256	79%	12635	97%	1689	72%	660	77%	50	2%	80	79%	26	100%	107	76%	9	18%
患者理由終了	4150	21%	355	3%	673	28%	199	23%	2826	98%	21	21%	0	0%	34	24%	42	82%
ドナー理由終了	15256	100%	12635	100%	1689	100%	660	100%	50	100%	80	100%	26	100%	107	100%	9	100%
健康理由	5824	38%	4302	34%	722	43%	639	97%	13	26%	16	20%	17	65%	106	99%	9	100%
腰痛	330	2%	260	2%	46	3%	17	3%	1	2%	3	4%	1	4%	2	2%	0	0%
貧血	229	2%	131	1%	11	1%	83	13%	0	0%	0	0%	0	0%	4	4%	0	0%
血圧	465	3%	276	2%	182	11%	3	0%	0	0%	0	0%	0	0%	4	4%	0	0%
感染症の可能性	119	1%	114	1%	4	0%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
治療中	2064	14%	1912	15%	122	7%	19	3%	4	8%	4	5%	1	4%	2	2%	0	0%
既往歴	792	5%	704	6%	54	3%	27	4%	1	2%	0	0%	2	8%	3	3%	1	11%
検査結果	495	3%	0	0%	5	0%	413	65%	0	0%	0	0%	0	0%	77	72%	0	0%
その他（健康上の理由）	1137	7%	718	6%	295	17%	76	12%	5	10%	8	10%	13	50%	14	13%	8	89%
妊娠・出産・授乳	193	1%	187	1%	3	0%	0	0%	2	4%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%
健康理由以外	9432	62%	8333	66%	967	57%	21	3%	37	74%	64	80%	9	35%	1	1%	0	0%
家族の同意なし	1090	7%	852	7%	195	12%	6	1%	3	6%	27	34%	7	27%	0	0%	0	0%
意思なし	138	1%	109	1%	18	1%	8	1%	3	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
本人の不安や迷い	452	3%	387	3%	57	3%	2	0%	1	2%	4	5%	1	4%	0	0%	0	0%
都合つかず	3559	23%	2916	23%	582	34%	4	1%	27	54%	30	38%	0	0%	0	0%	0	0%
連絡とれず	3345	22%	3265	26%	78	5%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%
住所不明	219	1%	219	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
その他（ドナー理由）	629	4%	585	5%	37	2%	1	0%	3	6%	1	1%	1	4%	1	1%	0	0%
患者理由終了	4150	100%	355	100%	673	100%	199	100%	2826	100%	21	100%	0	-	34	100%	42	100%
HLAミスマッチの不採用	181	4%	39	11%	21	3%	40	20%	80	3%	1	5%	0	-	0	0%	0	0%
HLAミスマッチ以外の不採用	517	12%	154	43%	259	38%	2	1%	87	3%	4	19%	0	-	5	15%	6	14%
他ドナー決定	2181	53%	49	14%	152	23%	79	40%	1901	67%	0	0%	0	-	0	0%	0	0%
ドナー選択の期限切れ	186	4%	0	0%	7	1%	6	3%	173	6%	0	0%	0	-	0	0%	0	0%
治療方針変更	108	3%	6	2%	14	2%	1	1%	74	3%	5	24%	0	-	5	15%	3	7%
臍帯血移植	244	6%	23	6%	46	7%	9	5%	149	5%	2	10%	0	-	5	15%	10	24%
血縁・目家移植	268	6%	22	6%	49	7%	17	9%	177	6%	0	0%	0	-	0	0%	3	7%
経過良好	92	2%	13	4%	22	3%	9	5%	44	2%	1	5%	0	-	3	9%	0	0%
辞退	66	2%	10	3%	18	3%	6	3%	27	1%	2	10%	0	-	2	6%	1	2%
病状悪化	158	4%	19	5%	45	7%	15	8%	62	2%	3	14%	0	-	4	12%	10	24%
死亡	149	4%	20	6%	40	6%	15	8%	52	2%	3	14%	0	-	10	29%	9	21%

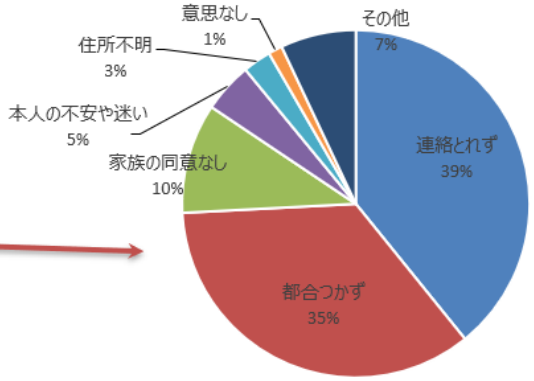
終了理由別 終了件数 （2023年度）

コーディネート開始件数　20,138件
（初期段階での終了件数　12,990件）









2022年登録患者の動き

2022年に登録した患者1911人の2023年12月31日時点における状況（国内ドナー、移植のみ海外ドナーも含む）

新規登録患者	1911	100%
コーディネート未開始	147	7.7%
コーディネート開始	1764	92.3%

進行中ドナーがいない患者	12	0.6%
ドナー検索を止めている患者	31	1.6%
登録取消し	103	5.4%
海外ドナー移植	1	0.1%

死亡	26	1.4%
病状悪化	5	0.3%
臍帯血移植	30	1.6%
血縁・自家移植	18	0.9%
経過良好	9	0.5%
治療方針変更	2	0.1%
患者辞退	2	0.1%
他ドナー決定	0	0.0%
HLAミスマッチ以外の不採用	0	0.0%
ドナー選択の期限切れ	11	0.6%

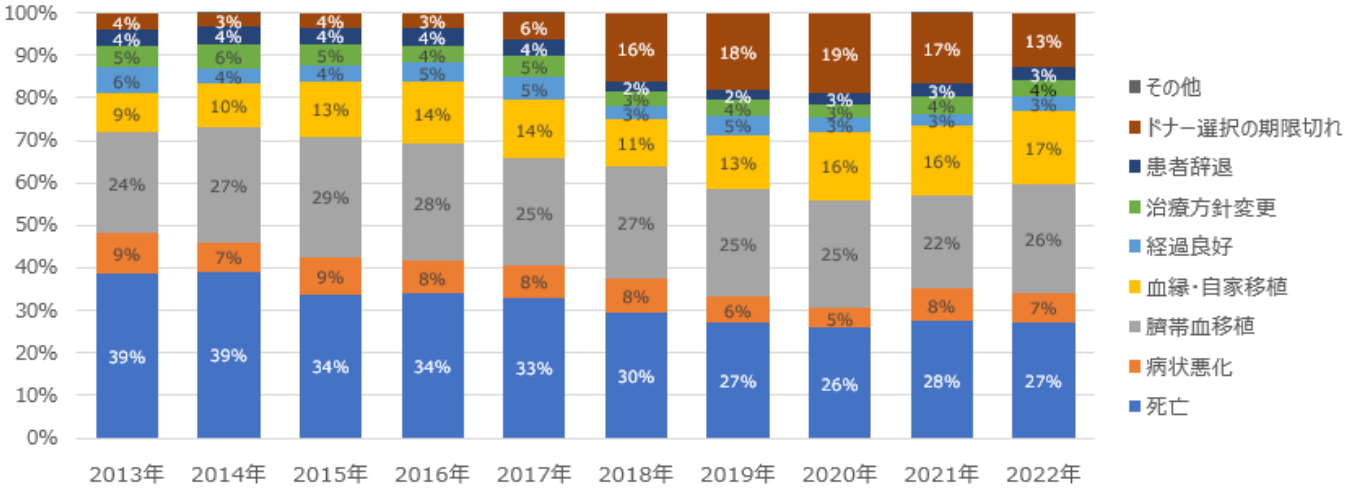
コーディネート進行中	6	0.3%
進行中ドナーがいない患者	18	0.9%
ドナー検索を止めている患者	193	10.1%
登録取消し	516	27.0%
抗原フルマッチ移植	744	38.9%
抗原ミスマッチ移植	287	15.0%
海外ドナー移植	0	0.0%

死亡	143	7.5%
病状悪化	37	1.9%
臍帯血移植	128	6.7%
血縁・自家移植	89	4.7%
経過良好	12	0.6%
治療方針変更	23	1.2%
患者辞退	15	0.8%
他ドナー決定	0	0.0%
HLAミスマッチ以外の不採用	0	0.0%
ドナー選択の期限切れ	69	3.6%

取消理由別　登録患者の推移

登録した患者の翌年末における状況（国内ドナー、移植のみ海外ドナーも含む）

新規登録年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
死亡	296	322	295	288	264	242	229	216	214	169
病状悪化	71	56	75	65	60	64	51	39	59	42
臍帯血移植	181	222	249	235	201	219	214	212	172	158
血縁・自家移植	71	86	113	123	110	90	107	133	126	107
経過良好	47	29	33	39	42	24	38	28	23	21
治療方針変更	37	47	44	34	40	28	31	27	30	25
患者辞退	29	34	32	36	30	18	19	21	24	17
ドナー選択の期限切れ	31	25	31	29	50	134	154	158	129	80
その他	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0



公益財団法人日本骨髄バンク
2023 年度事業報告書

2024年6月発行

発行：公益財団法人日本骨髄バンク

〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3丁目19番地
廣瀬第2ビル7階
TEL: 03(5280)8111　　FAX: 03(5280)3856
URL: https://www.jmdp.or.jp/